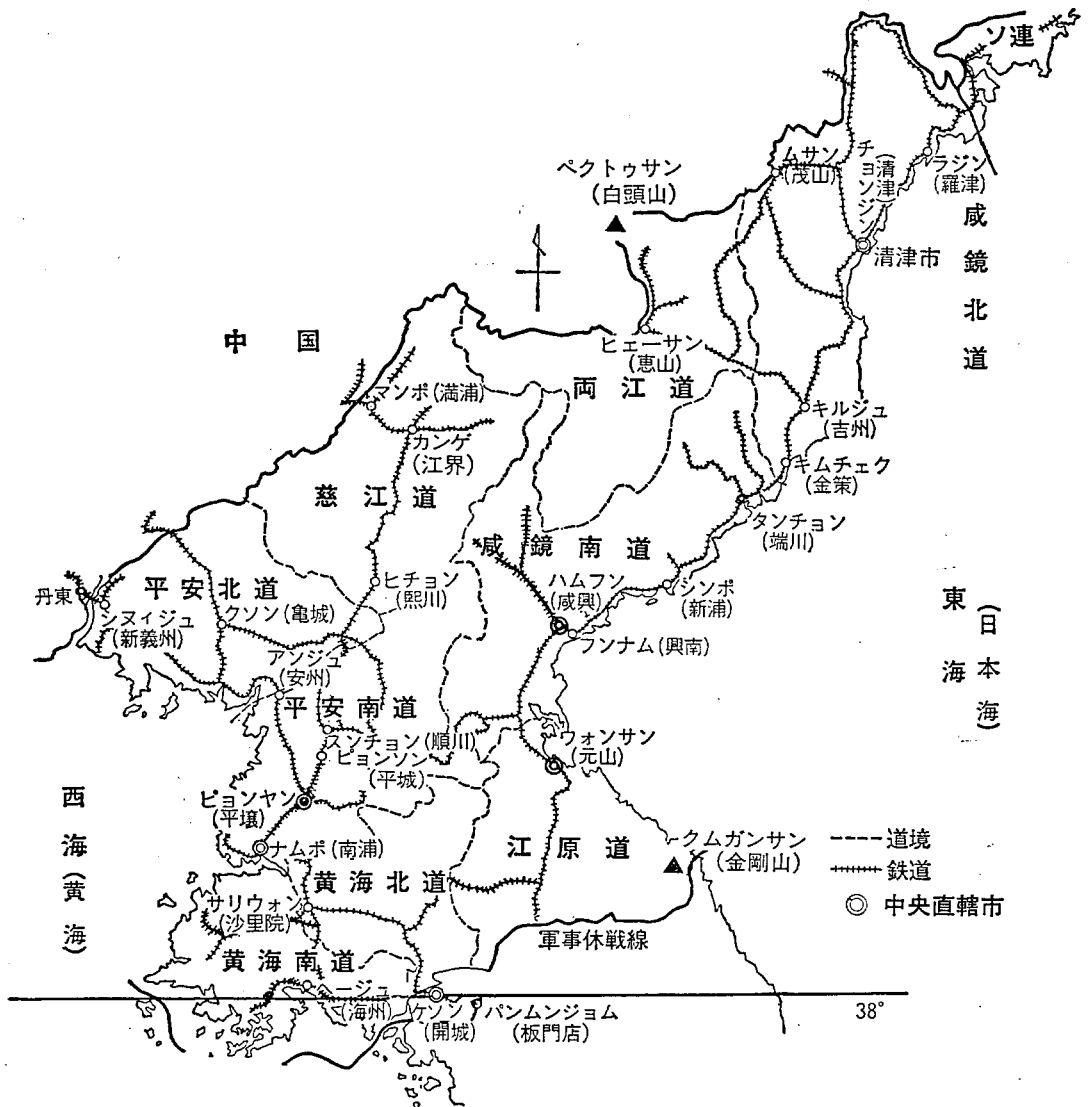


# 朝鮮民主主義人民共和国

朝鮮民主主義人民共和国

面積 12万534km<sup>2</sup> (1988年, FAO推計)  
 人口 2190万人 (1988年央, 国連推計)  
 首都 ピョンヤン (平壤)  
 言語 朝鮮語  
 政体 社会主義共和制  
 元首 金日成 (共和国) 主席  
 通貨 ウォン (旅行者レート: 1米ドル=2.20ウォン)  
 会計年度 歴年に同じ



# 1990年の朝鮮民主主義人民共和国

## 厳しい「孤立化・経済困難」脱出作戦

玉 城 素

1990年の北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）は、いまだかつてない激動に見舞われた。特に、表面化してきたソ連・韓国の接近傾向が、90年6月のゴルバチョフ・盧泰愚のサンフランシスコ会見に始まり、9月のシュワルナゼ外相の平壤訪問で決定的となり、ついに同月末のソ・韓国交樹立に至ったからである。

こうした動向は、すでに1988年のソウル・オリンピック大会前後からのハンガリー、ポーランド、ユーゴスラビアなどの対韓国交樹立で明らかになっていたものである。だが、北朝鮮は金日成政権の生みの親であるソ連がそこまで踏み切るとは、想像もしていなかったようである。

そのためか、北朝鮮の動きはシュワルナゼ外相の訪朝直後からあわたたしくなる。金日成主席の秘密訪中があったといわれるし、またすぐに日本から自民党（金丸）・社会党（田辺）訪朝代表団を呼び寄せて、対日国交正常化を提唱する。

これと並行して、子息金正日書記の世襲後継者化への工作も、年初から一段とあわたたしくなってきた。北朝鮮全国で革命スローガン樹木発掘運動が進められ、そのなかには金正日誕生を祝賀するスローガンまで続々と発見されたとされる。また、金正日書記文献学習運動・発表何周年記念報告会などが連続的に開催され、金書記の業績礼讃も例年になく活発化した。

### 政 治

●連続選挙による政治動員 1990年の金日成主席「新年の辞」は、長大なわりに内容の乏しいものとなった。とくに経済建設の面では、89年の成果として世界青年学生祭建設や順川ピナロン連合企業所、沙里院カリ肥料連合企業所建設等の新規建設を挙げるだけで、工業・農業を通じて生産実

績の数字をいっさい発表できなかった。これは、第3次7カ年計画の分水嶺をなす計画3年目の実績に全く見るべきものがないことを自認したことになる。

そして、その不成績を補うかのように、祖国統一問題や国際情勢について長々と述べている。

さらに、1989年11月に施行した地方人民会議選挙に続き、90年4月に第9期最高人民会議代議員選挙を施行することを決定した。最高人民会議選挙は4年ごとに行なわれる規定であり、前回の第8期代議員選挙は1986年11月であるから、約7カ月繰り上げて実施することになる。こうして全国を連続選挙体制下に置くことにより、国内全人民を政治活動に動員して党の統制と監視下に置き、いっさいの批判・異論を封殺して金日成・正日体制の保守・擁護体制の再構築をねらったのである。他の社会主義諸国がほとんど複数政党・複数候補者の民主主義型選挙制度に移行するなかで、北朝鮮のみが、依然として一党独裁下の無競争選挙を固守し、100%の賛成率を誇るものとして施行された。北朝鮮は、「領袖・党・大衆の一心団結」を世界に対して誇示する大々的なキャンペーンを展開した。

それは、ある程度効を奏した。1989年後半から表面化した東欧の激動と、北朝鮮からの東欧各国留学生たちの連続的な韓国への亡命騒ぎ、それをきっかけとする在外留学生たちの本国召還と再教育という危機的な状況を、この連続選挙施行によって何とか抑え込むことに成功したのである。

また年初の1月5日に開催された朝鮮労働党中央委員会第6期第17回総会は「増産・節約闘争」を全人民に呼びかけてるとともに、その力によって金主席の提起した西海岸地帯の灌漑水路400km建設と、金正日書記の提起した平壤5万世帯住宅建設を完遂するよう再び強く呼びかけた。これら

は、第3次7カ年計画の見通しが困難になってきたことを糊塗するために、金主席・書記父子が人民の食・衣・住を保障する指導を行なっているということを誇示して、人民の信頼を結集しようとしたものである。だが、最高人民会議選挙が終了してから5月24日に第1回会議を開催するまでの間に、早くも微妙な揺れが起こってきている。

この第9期最高人民会議第1回会議では、金正日書記がどのような国家ポストに初めて進出するかが一つの問題であった。金書記が党のナンバー・ツーの地位だけでなく、何らかの国家ポストに就くことによって、その世襲後継者化が最終的な安定軌道に乗るものと見なされるからである。恐らく、最高人民会議開催までに国家ポストの配分をめぐる、複雑な交渉が展開されたものと推定される。開催直前の5月15日付「労働新聞」に異様な論説が掲載されたことが、その暗闘の激しさを暗示している。「瞬間を生きても英雄的に生きよう」と題するその論説は、「党と主席の偉業に対する限りない献身性をもつ人間であるならば、誰もが英雄になれる」と指摘したのちに、「人間は長生きしたからといって価値あるものではない。人間は瞬間を生きても英雄的に生きなければならない」というのである。これは、金正日書記に象徴される新世代への国家権力委譲が時期尚早として抑えこまれたことに反対する意思表示であろう。

●**新最高人民会議の発足** 5月23日に開かれた朝鮮労働党中央委員会第6期第18回総会は、最高人民会議に提出する「国家および政府構成案に関する党の提議」を決定したのち、組織問題で党幹部の人事異動を行なった。(1)崔光、韓成竜を政治局員に、崔泰福、金喆万、崔永林を同局候補に補選、(2)許鏐を他の職務就任と関連させて党書記職から解任し、金容淳を国際担当書記に選出、(3)金益鉉を中央委員、金必煥、金利龍、金格植を同候補に選出、というものである。このなかでは崔光の政治局員入り、金喆万の政治局員候補への復活、許鏐から金容淳への国際担当書記交代が注目される。

翌5月24日に開催された最高人民会議第9期第1回会議では、国家・政府の最高機関の新しい人事が決められた。

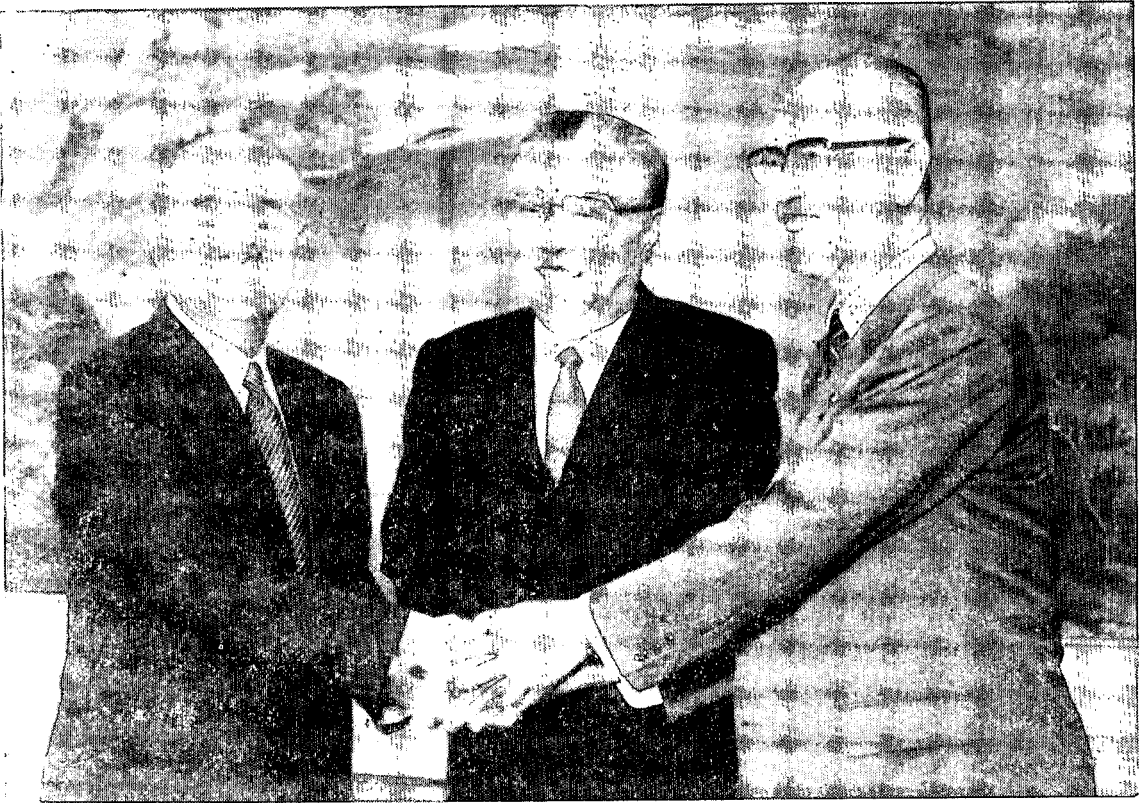
ここで目立ったのは、新たに組織された国防委員会で金正日書記が第一副委員長に就任し、吳振宇、崔光が次席副委員長についた。さらに同委員会メンバーのなかには金喆万も入っている。初めて金正日書記が国家最高機関の1ポストを獲得したという点と、しかもそれが軍事関係のポストだったことが注目された。同書記がついに軍事をも掌握して、国家権力を継承する位置につき始めたことを示すからである。

この会議で行なわれた金日成主席施政演説「わが国社会主義の優位性をさらに高く発揮させよう」は、朝鮮独自の社会主義体制をあくまで固守して、南北統一問題でも指導権をとろうとする意志を表現した。とくに「1990年代を歴史的な祖国統一の年代に」というプランのもとに、「祖国統一の五方針」を打ち出し、「朝鮮半島の緊張緩和」を最前面に出し、最終的には統一を「全民族的統一戦線形成」によって達成しようとする方針である。これ以後、対南統一攻勢は一段と活発化した。

●**祖国統一早期達成への傾斜** 1週間後の5月31日に開かれた中央人民委員会・最高人民会議常設会議・政務院連合会議は、4節10項目から成る「朝鮮半島の平和のための軍縮提案」を発表して、南北間の「不可侵宣言」採択と相互軍縮を優先順位に置いた。同日、南北会談北側代表団連合会議も開催されて「対話再開」を求める共同声明を発表している。

だが、その直後の6月4日に突如、サンフランシスコで盧泰愚・ゴルバチョフの首脳会談が実現したため、北側はこれを激しく糾弾して、一時は対話再開も危ぶまれた。だが、6月20日には北側から国会議員協議と高位級会談の再開提議がなされて、特に後者については9月の本会談開催合意がなされた。

ここで、9月を対話開始時期に設定したのは、その前の8月15日に汎民族大会を開催する計画で激しい運動が展開され始めていたからである。この大会は、南北朝鮮はもとより海外同胞にも広く国際的範囲で呼びかけられて進められてきたもので、南朝鮮当局に対する一種の包囲網形成を意図していた。これによって、韓国盧泰愚政権を窮地に追い込みつつ、南北対話レベルでの指導権を掌



金日成首相と金丸，田辺両氏(共同通信)

握しようとするプランであった。

これに対して、韓国側も思い切った対応策を取り、汎民族大会への南側代表の参加を許可し、一定期間の板門店経由自由往来を許す措置までとった。南側の参加を予想していなかった北側では同大会の準備に混乱をきたし、結局南側代表（全民連）の参加を不可能にしたため、汎民族大会はきわめて盛り上がり欠けたものとなった。

こうした8月の攻防ののちに、9月5日に第1回南北高位級会談がソウルで開催されて、初めて両政府総理級の対話が実現した。

●対日接近への路線急転換 ところが、その段階で北朝鮮にとってもう一つ重大な事態が生じた。9月2日に訪朝したソ連シェワルナゼ外相が、ソ連の対韓国交樹立の意思を表明・通告しただけでなく、朝ソ間貿易の抜本的な改定をも通告したのである。ここから、急遽対外戦略で大きな転換を遂げる必要性が出てくる。

それまでも、北朝鮮は日本社会党その他のパイプを通じて対日関係改善工作を少しずつ積み上げ

てきてはいた。だが、対日関係の主調はむしろ「日本軍国主義」復活を警戒し、「日本反動」の対朝鮮敵視政策を糾弾し、日・米・南朝鮮の結託による新戦争開始と対朝鮮侵略策動を攻撃することに置かれていたのである。

ところが、9月初めのシェワルナゼ訪朝以降の対日工作は急テンポとなり、ついに9月24～28日の自民党（金丸）・社会党（田辺）両代表団の訪朝を招請し、金日成主席じきじきの大歓迎が展開される。そこで、金主席の側から日本側の予測していなかった日朝国交正常化提案までなされるに至る。

この離れ業に対抗するかのようになり、9月30日にソ連・韓国間の国交もあわただしく樹立された。これに対して北朝鮮側は9月19日の『民主朝鮮』紙上で、シェワルナゼ外相訪朝時にソ連につぎつけた対ソ「備忘録」を詳細に発表し、10月5日には『労働新聞』論評「ドルで売り買いする外交関係」で、ソ連国家の変質とその無節操を厳しく糾弾した。また、この間、9月11日ころと伝えられる金日成主席の非公式訪中と江沢民中国共産党総

書記との会談(瀋陽)を境に、中国との関係緊密化を一段と強めることとなる。

そのことは、その後10月下旬の中国人民志願軍参戦40周年記念行事における多様な代表団交換や、11月下旬の延亨黙総理訪中と朝中経済協力協定調印(11月27日)などによって明らかとなる。

●朝鮮労働党創建45周年記念行事 10月10日の朝鮮労働党創建45周年記念行事は、こうしたあまたしい対外政策転換のまっただ中で行なわれた。ここでは、日本から自民党(小沢幹事長)や社会党(土井委員長)の代表団などが招かれ、日朝間の障害であった「第18富士山丸」船長・機関長の釈放・帰国も最終的に実現されて、日朝政府間交渉の軌道が敷設された。

この党創建記念日行事で重要なファクターの一つは、金正日書記が行事直前の『勤労者』1990年第10号に指導的論文「朝鮮労働党はわが人民のすべての勝利の組織者、嚮導者である」(『労働新聞』10月4日全文掲載)を発表して、その指導的地位を誇示したことである。この論文は、「世界革命」につながる朝鮮の「革命偉業完遂」課題を全朝鮮人民の至上課題とし、そのために党の指導が絶対的であることを力説したものである。これは、「党」の名において金書記自身が最高権力機関内で絶対優位の指導者であることを、示すことになる。これに関連して、最近叫ばれ出した「党が決心すればわれわれは行なう(する)」のスローガンもここで再強調された。

この論文発表とともに、思想教育を強化する活動、金正日書記への忠誠をその軸としようとする動きが表面化してくる。たとえば、10月29日付『労働新聞』社説「全社会にチュチュの革命精神をさらに溢れさせよう」は、「チュチュの革命精神は、いかなる異色な思想も許さない純潔な革命精神」「すべての活動家と勤労者は、わが党と革命隊伍内にチュチュ思想に反するいかなる思想も浸透できないよう帝国主義者の狡猾な思想・文化的浸透と反動的攻勢に反対して力強くたたかわなければならない」と訴える。また11月13日付『労働新聞』社説「革命的スローガンをさらに高く」は、スローガン「党が決心すればわれわれは行なう」について「党の意図と政策を死活的なもの」と

して受け入れ、水火を辞さず最後まで貫徹するという燃える志向をこめた絶対性、無条件性のスローガン」であると解説し、「誰がなんといおうとも、党の声にのみ耳を傾け党の意図どおりにのみ行なうわが人民の高潔な風格が高く発揮される時、われわれの社会主義建設闘争は党と領袖がさし示す勝利の道で引き続き力強く前進するであろう」とまで激しく主張している。

これを裏づける運動の一種として、11月からは朝鮮中央通信第5局第2細胞の書簡に答えた金正日書記の11月1日付回答書簡発表(『労働新聞』11月8日公表)例を模範に金書記への「忠誠の手紙」運動が党内で展開され始める。これと並行して金書記の理論業績・運動業績を礼讃するキャンペーンがいつになく激しくなる。11月18日の「三大革命赤旗獲得運動発端15周年記念中央報告会」は、この運動の発端を金書記1975年11月提示スローガン「思想も技術も文化もチュチュの要求どおりに」にあるとして、15年間に5736単位が三大革命赤旗を獲得し、249単位が二重三大革命赤旗を獲得、45万9530余人が三大革命赤旗旗手に育つたと誇示した。また、12月7日の朝鮮中央通信は「金正日書記が示した革命的スローガン」を70年代から列挙したのち、これらスローガンに結集した「三大革命グループ員」は17万余人で、そのうち2万余人が労働党員に育ち、5万余人が国家受勲者となったと総括している。これらは、金書記権力の支持基盤を示す数字としても重要である。

●複雑な対外戦術展開 南北高位級会談は、この間第1回ソウル(9月5～6日)、第2回平壤(10月17～18日)、第3回ソウル(12月12～13日)と開催されたが、南北の主張がことごとに行き違った。とくに、この会談で北側総理が強硬に主張したのは、南北不可侵宣言の採択という軍事優先原則であり、またこの会談を「国家間会談(対話)」とすべきではないという原則であった。

だが、同時に9月22日～10月7日の北京アジア競技大会以後スポーツ関係と、10月18～23日の平壤「汎民族統一音楽会」以後の音楽関係についての対話と交流が急進展した。ただし、赤十字会談(南北離散家族再開問題)、国会会談、経済会談は中絶されたまま再開されなかった。

この北側の南北対話・交流の選別的展開は、きわめて戦術的なものと見られる。

これと並行して、国連同時加盟方針をとろうとする韓国に対して、第1回高位級会談で設定した国連加盟協議を連続開催し、新たな単一議席加盟案を提案したことは、一種の巧妙な遅滞作戦の展開である。また、韓国盧泰愚大統領の対内治安対策強化やソ連訪問に対し、激しい断罪・糾弾キャンペーンを展開したことは、明らかに南朝鮮内部における革命的反政府運動の激化を促すものだったからである。

こうした南北対話の戦術的展開は、同時並行で進んでいた韓・ソ国交樹立、朝・日国交正常化交渉、朝・中関係緊密化工作などと関連させて見ると、その構造が浮かび上がってくる。

それは、あくまで高位級会談を非妥協的にでも継続することによって、朝鮮半島の安定（現状維持）を望む関係諸国（ソ、中、日、米）の圧力を緩和しながら、南朝鮮内に文化（スポーツをふくむ）レベルでの統一ムードを促し、それを革命的な変革へと誘導することである。しかも、そこでは日朝国交正常化への動向（しかもそれは、日本の謝罪による賠償・補償金の獲得という実績を伴う）が大きな支えとなりつつある。

こうした、かなり多面的で複雑な戦術を、1990年の北朝鮮は新たに展開し始めたと見てよいであろう。

## 経 済

●**経済正常化と新規建設** 第3次7カ年計画の3年目（1989年）を終わったのに、その成果報道がきわめて乏しく、金日成主席「新年の辞」でも何の数字も挙げられなかったことは前述のとおりである。そこでは新年（90年）の方針として「刻苦奮闘・節約増産」により経済を正常化すべきことが強調された。

1月5～9日の朝鮮労働党第6期第17回中央委員会総会も「増産・節約」を優先課題としたのである。

だが、同時に新規建設課題も前年末から提起されていた。金主席主唱の西海岸方面での大規模灌溉水路建設課題と、金正日書記指令の平壤5万世

帯住宅建設課題がそれである。

このうち、灌溉水路建設課題は4月中に400kmの長大水路を完成し、各河川水と西海閘門の湛水を利用して西海岸一帯の農業増産と干拓地造成に一大躍進の条件を与えたものとされた。

また、建設中心地楽浪区域が6月7日に「統一通り」と命名された平壤5万世帯住宅建設については、本年に入ってからその内容・規模が日を追って加重され、明確化されてきた。規模的には、世界青年学生祭建設（3年間）の1.5倍の建設を2年間（1991年4月まで）に達成すること、その中には学校、公園、文化・保健・商業施設はじめ多くの施設が設けられ、さらには三大革命展示館のような記念碑的建造物や、電力供給のための東平壤火力発電所の新建設なども含まれることになる。年末に至ると、さらに大規模な路面電車建設課題も追加された。したがって、平壤には世界青年学生祭準備の「首都大建設」をさらに上回る資金・資材・機器・労働力の集中動員がかけられた。

これらの新規2大建設への大動員は、人民の「食衣住」改善対策にいかにか父子が努めているかを示すとともに、経済計画の不振（特に1992年4月までの繰り上げ達成不可能）を補償するための突出プロジェクトといってよい。

さらに、近年着手した順川ピナロン連合企業所建設と沙里院カリ肥料連合企業所建設課題がまだ中間段階にあるほか、最近金正日書記現地指導で始まった茂山鉱山連合企業所（鉄鉱）の改造拡張工事もある。これらも、緊急建設課題として精力的に進められた。

さらに、経済正常化のために切迫課題となってきたのは、エネルギー問題である。これは、一つには炭鉱や電力施設（発電・送電・変電・配電）の老朽化という内部原因にもよるが、同時に従来石油を中心とする燃料源の重要補給先となってきたソ連からの輸入が激減し始めたためでもある。そのため、発電所新設工事と炭鉱の開発ないし改造拡張工事を活発化せざるをえなくなった。

発電所新設工事では、平壤はじめ各主要都市（平城、南浦、沙里院、咸興、金策）で火力発電所の新設が開始されるとともに、水力では渭原、寧原江、南江、錦野江、漁郎川、礼成江のほか全国で中小水力発電所建設が推進された。また、炭鉱の

開発・改造拡張で工事は平壤周辺や安州のほか各地で積極的に進められた。

これらは、いずれもあわたたしく展開されたため、早急には生産力化されえない。しかも、前記の新規大規模建設と競合的に進められているため、また新たな隘路を発生させざるをえない。とくに、これだけの新規建設を同時多発的に、しかも「速度戦」方式で進めるためには、資金問題が重大化する。

こうして、結局は人民の思想教育による「刻苦奮闘」の最大限動員と、日本からの資金導入に強い期待を抱かざるを得ないこととなっていくのである。

●速度戦動員と隘路発生 人民動員については、この年初めからとくに前半期に集中して各部門や動員組織の活動家・熱誠者会議が連続的に開催された。その主なものは次のとおりである(宣伝部門等を除く)。

- 1月10～13日 全国農業大会
- 1月16日 平壤市勤労者・首都建設者連合大会
- 1月23日 「速度戦青年突撃隊」熱誠者会議
- 2月26～27日 「二月十七日科学者・技術者突撃隊」熱誠者会議
- 2月26～28日 全国生産革新者大会
- 3月4日 「党員突撃隊」創立10周年記念報告会
- 3月8～9日 全国模範畜産作業班運動先駆者大会
- 3月13～14日 全国電力工業部門熱誠者会議
- 3月18～19日 全国機械工業部門熱誠者会議
- 3月27日 全国熱管理部門熱誠者会議
- 4月1～2日 全国果樹部門活動家会議
- 4月8～10日 全国青年熱誠者大会
- 4月18～20日 全国「四・一五技術革新突撃隊」大会
- 4月24～25日 全国建材部門熱誠者会議
- 4月29～30日 全国林業部門熱誠者会議
- 5月16日 「速度戦青年突撃隊」創立15周年記念報告会
- 6月2～4日 全国軽工業大会、金書記が書簡送る
- 9月13～14日 全国財政銀行活動家大会、金書

記が書簡送る

11月18日 三大革命赤旗獲得運動発端15周年記念中央報告会

12月16～17日 全国運輸部門熱誠者会議

これら会議の開催状況を見ると、前半には金正日書記主導の「突撃隊」タイプを優先モデルとして、各部門のエリート熱誠者・先駆者・革新者などによる建設・増産促進の動員方式が目立ち、政治的問題の多くなった7～9月の中断期を境に、9月後半以後には財政銀行や運輸といった隘路部門の解決に向けたことがわかる。

●財政状態に見る経済建設状況 例年の経済指標をある程度示している財政報告について見ると、5月24～26日の第9期第1回最高人民会議の尹基福財政部長報告による決算・予算数字は表1のとおりであった。

この財政数字で特徴的なことは、昨1989年度予算・決算に比べて、90年度予算の伸び率を約1%高めて6%台とし、その中でも工業部門収入を7%と高く見積もったことである。これは「人民経済各部門で最大限に増産・節約して新たな革命的大高揚を起こす」方針に基づいていた。その予想に従って財政支出面でも、人民経済支出を6.9%伸ばし、中でも電力・採掘・金属工業部門への支

表1 財政規模の推移(1986～90年)

	金額(万ウォン)	対前年決算比(%)
1986決算	歳入 2,853,850	104.0
	歳出 2,839,610	103.9
1987決算	歳入 3,033,720	106.3
	歳出 3,008,510	105.9
1988決算	歳入 3,190,580	105.1
	歳出 3,166,090	105.2
1989予算	歳入 3,355,070	105.2
	歳出 同上	106.0
1989決算	歳入 3,368,100	105.3
	歳出 3,338,294	105.4
1990予算	歳入 3,565,561	106.1
	歳出 同上	106.8

出を7.5%も増大させる予定であった。また、農業部門と社会文化部門への支出をそれぞれ6.5%増やし、住宅建設については伸び率では最高の9%増の支出を見越したのである。軍事費についても、全体伸び率と同等の6.3%を増やすこととした。その反面、機械工業、化学工業、軽工業、水産業、交通運輸などについては伸び率が示されず平均以下となったものと推定される。

これは、一種の重点投資方針であり、経済の部門間不均衡をさらに増大させる可能性をはらむものである。

もちろん、最近では国家財政予算は経済計画と同様に、適切に実行されたためしがなく、党の恣

意的な時々の政治判断によって絶えず変更されてきている。とくに、それが権力体制の継承維持のための、新規大規模建設への集中傾向を持っているだけに、こうした経済の不均衡構造はますます拡大する方向に向わざるをえないこととなる。事実、年間を通じてそれが実証され、経済全体と財政を破綻に導いてきたことは、前記のとおりである。

表2 財政支出の費目別推移(対前年比%)

	1987決算	1988予算	1988決算	1989予算	1989決算	1990予算
人民経済支出	107.3	107.0	106.5	106.1	105.8	106.9
工業建設投資	109.1	111.0	—	109.0	—	(入107.0)
生産的 建設投資	—	—	—	—	107.0	
電力工業	—	—	—	108.0	} 108.0	} 107.5
動力基地	—	115.2	—	—		
採掘工業	—	—	—	108.0		
金属工業	—	—	—	108.0	107.0	
機械工業	—	—	—	116.0	—	はるかに増
化学工業	—	—	140.0	—	—	継続増
化学・軽金属基地	150.0	122.4	—	—	—	—
軽工業・水産	—	—	140.0	—	—	—
軽工業	—	—	—	113.0	—	—
水産業	—	107.5	—	—	—	—
農業	108.9	108.0	—	107.0	106.0	106.5
干拓	—	—	—	—	—	—
交通運輸	—	107.4	120.0	はるかに増	多く	多く
科学技術	132.0	140.0	135.0	大幅増	—	—
社会文化	—	106.2	105.5	106.1	105.2	106.5
教育	105.8	—	105.2	—	—	—
文化	101.0	—	—	—	—	—
保健	104.3	—	105.6	—	—	—
住宅建設	—	—	—	—	—	109.0



## 1月

1日 ▶金日成主席「新年の辞」——前年成果は大規模建設推進と世界青年学生祭成功、今年課題は「自力更生、刻苦奮闘」で「最大限増産し節約する」こととし、基本建設、基幹産業、軽工業、農業、住宅を挙げる。統一問題ではコンクリート障壁撤去・自由往来、最高位級参加の当局・各政党協商会議により「歴史的転換の年」に。

2日 ▶『労働新聞』社説、希望に満ちた1990年代の最初の年を偉大な勝利で輝かせようとして強調。

3日 ▶『労働新聞』論評「南朝鮮は最も閉鎖された独裁社会」。

4日 ▶各地寺院で成道記念法会開催——平壤市龍華寺法会説教「北半分の全仏教徒は、民族分裂の苦痛から一日も早く脱するため、金主席「新年の辞」の祖国統一方針を実現するために立ち上がらなければならない」。

5日 ▶朝鮮労働党中央委員会第6期第17回総会（～9日）——「人民経済各部門、各単位で増産・節約闘争をさらに力強く繰り広げることについて」（延亨黙総理報告）。

▶『労働新聞』、『民主朝鮮』、盧泰愚の「新年の辞」を糾弾。

▶朝鮮中央通信、革命スローガン文献、革命遺跡・遺物の発見がさらに拡大し全国の各地域に及ぶと報道——89年末現在、全国で9000余のスローガン文献、2600余の革命遺跡、50余種、3800余点の遺物を発見。

▶北京市で朝・米大使館参事官接触。朝鮮は三者協商開催を促し、核保証協定問題は国際原子力機関と協商中と主張。

8日 ▶『労働新聞』論評、「恥知らずなコンクリート障壁否定」。

9日 ▶共和国政府、政党代表の連合会議——主席「新年の辞」の新救国方案の実現対策を討議。延総理、南北当局・各政党首脳商会議の予備接触の開催を提案。

10日 ▶全国農業大会開幕（～13日）——延総理報告、(1)党農村政策の輝かしい勝利、(2)社会主義農村経理制度を強化発展させ農業生産で新たな高揚を起こそう。

11日 ▶朝鮮人民軍金福権少将記者会見——「コンクリート障壁の除去は、南朝鮮当局者の統一意思を検証する試金石」。

▶金主席、全国農業大会出席者を祝賀。

▶第一次南極探検隊（張基鳳団長）平壤出発。

12日 ▶『労働新聞』論評——盧泰愚の年頭会見における南北関係諸提案を拒否。

▶『労働新聞』論説「社会主義をチュチュの要求どおり建設しよう」。

▶千里馬製鋼連合企業所従業員決起集会、全国に「90年代速度」創造の社会主義競争を呼びかけ。

13日 ▶政府・政党連合会議採択書簡を、盧泰愚「大統領」、姜英勲総理、金大中平民政党総裁、金泳三統一民主党総裁、金鍾泌共和党総裁に伝達。

▶『労働新聞』社説「社会主義建設で一大高揚を」。

▶『労働新聞』署名論評「詐欺と虚偽、欺瞞で綴られた政治謀略劇——盧泰愚の年頭記者会見を糾弾」。

14日 ▶平壤市内青年学生10万人の行進と決意集会——金主席新年の辞と党中央委総会決定徹底貫徹で先鋒隊、突撃隊の役割を果たそう。

15日 ▶青山協同農場（南浦市江西区域）で農場員決起集会——社会主義競争を全国農業部門労働者に呼びかけ。

16日 ▶平壤市労働者・首都建設者連合大会——「91年末までに5万世帯の住宅と東平壤火力発電所と三大革命展示館などを建設する膨大な課題は3年間で完工した世界青年学生祭関連施設建設の1.5倍」。

17日 ▶楊亨燮最高人民会議議長、IPU 議会に南北単一代表団で参加する問題で南北議会議グループ会談を提案。

▶軍事停戦委第453回会議、北側「チームスピリット」の即時取消要求。

18日 ▶『労働新聞』、金主席の52年演説の「人民政権を強化するための今後の任務」部分を掲載。

▶第7回南北スポーツ会談、南側の「付則」の撤回を求めたため合意書にサインできず。

▶朝鮮軍事代表団（金光鎮大将）訪ソに出発。

▶南浦火力発電所着工集会。

19日 ▶『労働新聞』社説「全人民が英雄的闘争をくり広げ『90年代速度』を創造しよう」。

▶『労働新聞』論説「経済活動への党の指導強化」。

▶『平壤新聞』記事「日本反動の露骨化する軍事大国化策動」。

20日 ▶『労働新聞』社説「平壤の5万世帯住宅建設を力強く進めよう」——「党が決心し全党が取り組んでできないことはない」。

22日 ▶外交部声明——「チームスピリット90」合同演習計画の即時取り消しを要求。

▶原子力工業部代表団（崔学根部長）、キューバ訪問に出発。

23日 ▶『労働新聞』社説「千里馬大高揚期の精神、急迫で進もう」。

▶速度戦青年突撃隊熱誠者会議——この15年間で万年

大計の記念創造物を建設する威力ある部隊に。

24日 ▶南北国会合同協議のための第10回協議——北側「チームスピリット」演習中止問題を緊急議題に提案。

25日 ▶『労働新聞』、金主席労作「咸鏡北道党組織の任務(59年3月23日)の「党活動について」「人民委員会の活動について」の部分を掲載。

▶『労働新聞』評論員論評「人民に見捨てられた者らの新たな政治クーデター」——南の三党統合を糾弾。

▶火力発電所建設を積極推進——平壤新火力発電所、十二月火力発電所(降仙地区)、南浦火力発電所、清津火力発電所など。

▶政務院採掘工業委員会を分割・解消し、「石炭工業部」と「鉱業部」を新設(30日、金利龍を石炭工業部長、金必煥を鉱業部長に任命)。

▶党中央委員会国際部、駐朝中国大使館員と旧正月の友好集会、『労働新聞』論評「安定団結を果たした喜びを抱き」。

26日 ▶外交部スポークスマン談話——「共和国政府はソ連のベトナムからの武力撤収措置を支持歓迎」。

28日 ▶『労働新聞』論評「障壁崩すことは統一の決定的局面開く」。

29日 ▶全国党思想部門活動家会議(～30日)。

▶南北赤十字実務代表協議北側団長、南側に「花を売る乙女」公演を受け入れよと電話通知文を送る。

▶第8回南北スポーツ会談、南側の「付則」撤回を要求、合意なしに終わる。

▶革命スローガン樹木、黄海北道で発見され全国10道に及ぶ、金正日書記を讃えたもの多数——「金日成将軍の継承者」「同胞よ見たか、聞いたか、白頭山に金大将の志を継ぐ光明星があった」「白頭光明星、永遠に戴こう 一九四二年」など。

30日 ▶朝鮮仏教徒連盟中央委総会(平壤)。

▶朝鮮カトリック教徒協会中央委声明——林秀卿、文神父への重刑求刑を糾弾。

31日 ▶『労働新聞』、金主席58年3月19日演説「社会主義建設における青年の課題について」全文掲載。

▶南北高位級会談第6回予備会談、「チームスピリット」中止問題の先議解決を提案、進展なし。

## 2月

1日 ▶文学芸術部門熱識者会議。

▶全国出版報道部門活動家熱識者会議。

▶『労働新聞』論説「自力更生は社会主義建設の重要な方途」。

2日 ▶今年は500余の中小発電所の建設をめざす(89年には450を建設)。

▶軍事停戦委第454回会議。北側首席委員がコンクリート障壁の一日も早い除去を要求。

3日 ▶滞在中のキューバ、イランの賓客がコンクリート障壁を視察。

4日 ▶『労働新聞』社説「青山里精神、青山里方法を徹底的に具現しよう」。

5日 ▶咸鏡北道茂山郡で20日間に384のスローガン文献発見。1月20日現在で計2000余点。

▶首都平壤に楽浪通り建設中——2年間に2万世帯、長期的には数万世帯の住宅建設を予定。

▶『労働新聞』社説「電子、自動化工業発展で転換を」。

▶『労働新聞』論説「朝ソ友好の重要な契機」——朝ソ科学技術協力協定を讃え。ソ連のペレストロイカと平和努力を評価。

▶三大革命グループ決意集会。

6日 ▶朝鮮農業動労者同盟第14回総会(～7日)。

▶駐朝各国大使館付武官がコンクリート障壁を視察——中国、キューバ、エジプト、イラン。

7日 ▶第9回南北スポーツ会談、まとも空転。

▶『労働新聞』『民主朝鮮』『平壤新聞』いっせいに林秀卿一行への懲役宣告は反統一暴挙と一斉に非難。

8日 ▶国連開発計画の協力による農業科学院強化対象完成、操業式。穀物類の種子精選、乾燥、その物理的純度を長期保証など。

10日 ▶シュワルナゼ・ソ連外相記者会見——モスクワ米ソ会談で朝鮮半島問題を討議。共和国が国際原子力機関との保証措置協定締結に非常に付つたと米國務長官に知らせた。

12日 ▶朝鮮職業総同盟中央委第19回総会(～13日)——「新年の辞」と党中央委総会決定を徹底的に貫徹する課題を討議。

13日 ▶三月二十六日工場に樹脂高圧ケーブル職場新設・操業式。

14日 ▶2月中旬までの3年間に全国各地で革命スローガン文献1万余点発掘——金日成礼讃1260余点、金正日礼讃210余点など。

▶朝鮮石炭工業部、ソ連石炭工業省との協力協定調印(平壤)。

▶黄海南道で青丹—徳達間鉄道開通。

▶新坡青年鉱山(非鉄金属鉱物生産基地)操業開始。

15日 ▶政府・政党代表第2回連合会議の書簡を南側に伝達(板門店)。5項目にわたる当面の対策を提案。

▶金主席、400余\*の水路建設に従事する人民軍軍人と建設者、農業動労者の仕事ぶりを高く評価し、感謝を送る。

▶各地で主席の感謝に忠誠で応えるための決意集会。

▶「韓民戦」中央委「時局宣言」——(1)全民族民主運動の団結で親米保守大連合を粉碎しよう、(2)自主、民主、統一運動を加速化し、盧軍部独裁政権打倒の反独裁民主化闘争に決起、コンクリート障壁解体、自由往来、全面開放の道を開こう。

16日 ▶金正日書記誕生日(48歳)に際し、韓民戦中央委祝賀文——「民族の英明な指導者」。

▶朝鮮少年団全国連合団体大会。

▶『労働新聞』社説「社会主義建設の大高揚を促進しよう」。

18日 ▶「大学生デー」開幕式(5万余の学生参加)——党が毎月第3日曜日を「大学生デー」に定めた。

19日 ▶『労働新聞』論説「全社会のチュチュ思想化綱領の意義」。

21日 ▶平壤蒼光通りに大聖水産物直売店オープン。

22日 ▶最近、記録映画「民族分裂の象徴——コンクリート障壁」と「白頭山光明星」を制作。

▶最高人民会議常設会議、4月22日に最高人民会議第9期代議員選挙実施と発表。

24日 ▶単行本「革命の聖地—白頭山密宮」を出版——金書記が42年2月粗末な丸太小屋で誕生し、抗日大戦を体験、チュチュ革命偉業継承完成の遠大な志を培った。

25日 ▶咸鏡南道定平鉱山操業式。合金元素鉱物を量産。

26日 ▶朝鮮中央通信、日本・西側マスコミの北朝鮮で核兵器製造可能核施設拡張報道は全くのねつ造と主張。

▶「二月十七日科学者・技術者突撃隊」熱誠者会議開催(咸興、～17日)。

▶平壤5万世帯住宅建設は、70年代初めの千里馬通り住宅建設の12.5倍、70年代半ばの楽園通り住宅建設の16.5倍以上、80年代初めの紋繻通り住宅規模の3倍以上。

▶全国生産革新者大会開幕(～28日)。6000余人出席。延総理報告「90年代の総進軍運動で労働者階級の前衛的役割を高めるために」。

▶全国高校中学校生徒のコンピュータ・プログラム作成コンクール(咸鏡南道金野郡、～28日)。

27日 ▶朝鮮人民軍最高司令官(金日成主席)、人民軍陸海空軍、人民警備隊の全部隊、赤い青年近衛隊全隊員に万端の戦闘動員準備を整える命令。

▶駐ソ連大使に孫成弼を任命。

▶第2回冬季アジア競技大会選手団(朴明哲国家体育委員会副委員長)、日本に出発。

28日 ▶金主席、全国生産革新者大会参加者を祝賀。大会閉幕。「誓いの手紙」採択。

### 3月

1日 ▶「チームスピリット90」演習糾弾平壤市民大会。

▶『労働新聞』社説「全民族が団結して平和と統一を促進しよう」——「南朝鮮でアメリカの植民地支配を終わらせるのは必須の先決課題。南朝鮮人民がアメリカの支配と干渉から抜け出すためには、その手先盧泰愚軍事独裁政権を倒さねばならない」。

2日 ▶『労働新聞』社説「新たな『90年代速度』創造の先頭に立とう」。

▶朴明哲冬季アジア大会選手団団長、東京で記者会見——第3回大会は95年3月5～13日に三池淵郡で開催、競技施設、宿舍建設に2億ドル以上の投資を予定。

▶平壤編織針工場で6本のロボットを開発。

3日 ▶『労働新聞』論評——金泳三が独裁権力の手先となったのは背信行為、逆行行為。

4日 ▶党员突撃隊創立10周年記念報告会——「1980年3月に大記念碑建設を担当する党员突撃隊を組織」「現課題は白頭山地区革命戦跡地建設、楽浪通り住宅・サービス施設建設」。

5日 ▶外交部声明——「アメリカは実際的な撤退措置をとるべきである」。

▶「チームスピリット90」演習糾弾市民集会、両江道、黄海北道、咸鏡南道、南浦市で5、6両日。

6日 ▶人民武力部スポークスマン声明——「第四トンネル」は共和国とは何の関連もない虚構のねつ造物。

▶朝鮮選手団韓鋼花役員、兄弼聖と40年ぶりに再会(千歳空港)。

▶『労働新聞』署名論評「日増しに増大する再侵略野望」——日本反動の対朝鮮再侵略野望を糾弾。

7日 ▶平壤リョンモッ洞地区に延べ8万平方メートルの三大革命展示館と三大革命記念塔を人民軍軍人が建設中。

8日 ▶金主席、インド共産党代表団と会見。

▶祖国統一民主主義戦線中央委緊急拡大会議「南朝鮮の三党統合劇を徹底的に反対排撃するために」を討議。

▶『労働新聞』論評「『第四トンネル』は北侵略」。

10日 ▶『労働新聞』論評「危険な核戦争演習」——日本は危険な核戦争の温床。

11日 ▶各地の寺で涅槃法会——平壤市龍華寺の大禅師説教は「チームスピリット」演習を非難、コンクリート障壁撤去と全面開放を主張。

12日 ▶社労青中央委第16回総会(～13日)——社労青員の組織・思想生活の改善強化、大学社労青組織の学生青年思想教育活動強化を討議。

▶外交部、コンクリート障壁の実態をあばく備忘録を公開。

▶朝鮮・バングラデシュ政府間公報分野協力協定調印(ダッカ)。

13日 ▶全国電力工業部門熱誠者会議(～14日)。今後数

年間に発電能力を2倍以上にする対策を提起、決議文。

14日 中国共産党江沢民総書記、平壤着。金主席、金書記空港出迎え。歓迎儀式。50余万市民熱烈歓迎。

金主席、江総書記会談(～15日)、金正日、金永南、崔光、尹基福、金容淳ら同席。金主席歓迎宴。

軍事停戦委第455回会議で、共和国側首席委員「第四トンネル」共同調査を提起。

日用品増産中——特に化粧石鹸、学習ノートなどの生産を2倍以上、歯磨き粉、マッチ、砂糖、菓子なども3月に入り増産。

三池淵郡に大野菜温室農場第一段階工事基本的に終了。総面積6万3000余平方に白菜、胡瓜、トマト、トウガラシ、カボチャなどを栽培開始。

金剛山安辺一温井里間100余の鉄道建設中。

15日 金日成主席、ソ連大統領に選出されたゴルバチョフ氏に祝電。

天道教友党中央委第6期第16回総会——『チームスピリット』演習に反対し、平和的祖国統一を早めるための課題を討議。

16日 江総書記帰国、金父子ら最高幹部空港見送り。

17日 金永南主席特使、ナミビア訪問に出発。

全国保健活動家奉仕経験討論会(～18日)。

18日 『労働新聞』『民主朝鮮』社説、江総書記訪朝に関連し、朝中両国人民は社会主義の旗を掲げて共にたたかうだろうと論ず。

全国機械工業部門熱誠者会議(～19日)。

19日 『労働新聞』盧泰愚改閣を論評——「盧の分裂体質には何の変化もなく、期待することは何もない」。

20日 『労働新聞』論説「日本当局はわれわれに対する非友好的な態度を放棄すべきだ」。対朝敵視政策列挙。

21日 カンボジア・シアヌーク大統領平壤着(～26日)。

全国煽動員・五戸担当宣伝員熱誠者会議開催(～23日)——「革命と建設の全分野で『われわれの方式で生きよう』という党のスローガンを貫徹すべきである」。

22日 朝鮮・ナミビア間外交関係樹立・外交代表交換共同コミュニケ発表(ウィントフーク)。

駐コートジボアール大使に李在林を任命。

共和国政府・政党中央代表協議会開催——障壁を崩し北南自由往来・全面開放を実現するための北南最高位級参加当局、各政党首脳協商会議の早急開催対策を討議。

『民主朝鮮』紙寄稿論説、「第四トンネル」に対する「証拠物」は謀略で一貫した虚偽捏造と主張。

23日 金主席、全国煽動員・五戸担当宣伝員会議参加者と会見・祝賀。

政府・政党中央代表者会議採択書簡を板門店で手交す——障壁の共同調査団を組織して現地調査を実施し、実

務協議接触を3月28日に持つよう提案。

『労働新聞』社説「代議員選挙を意義深く迎えるため立ちあがろう」——「選挙(の成功は)たたかう南朝鮮人民と世界の革命的人民に大きな励ましを与え、帝国主義者の反社会主義策動に甚大打撃」。

26日 『労働新聞』論評「戦争挑発前夜の盲動」——南の李相燕国防長官の言説を糾弾。

国家観光指導総局宣伝局長談話——最近4年間で観光客数は1.5倍、今年は89年比1.4倍増加見込み。1989年9月に世界観光機構に加盟。

27日 全国動力管理部門活動家熱誠者会議(咸興)。

『労働新聞』署名論説「『大東亜共栄圏』を夢見る日本国軍主義」。

28日 政務院スポークスマン、南側の障壁共同調査実務者協議拒否を非難。

29日 汎民族大会北側準備委、南朝鮮全民連宛書簡公開——祖国解放45周年の今年8月15日に板門店で北と南、海外同胞の汎民族大会を開くことを決定。

朝鮮・国連開発計画間の平壤コンピュータ運営会社の強化対象協力合意(平壤)、温室野菜水栽培技術導入で国連開発計画・国連食料農業機関の協力問題も討議。

30日 『労働新聞』論説「階級的思想教育を強化してこそ社会主義を発展完成できる」。

31日 『労働新聞』論説「『北方政策』が追求するもの」——「南朝鮮独裁集団の『北方政策』の目的は社会主義諸国の『認知』を受けることで『国連加盟』を遮ってきた『社会主義の壁』を崩し『二つの朝鮮』づくりの突破口を開こうとすることにある」。

全国金属工業部門熱誠者会議(平壤、～4月1日)。

開城市で金主席を讃える革命スローガン文献発見。

## 4月

1日 第205楽元選挙区有権者大会、金日成主席を候補者に推戴。

全国果樹部門活動家会議(咸鏡南道北青、～2日)。

2日 全国職盟宣伝活動家会議——「われわれの方式で生きよう」のスローガンで自力更生、刻苦奮闘の革命精神を発揮し続ける問題を強調。

3日 『労働新聞』論説「『国際的役割』の看板のもとに海外侵略へ」——海部、竹下など日本反動層を糾弾。

4日 第575号茂山選挙区有権者大会、金正日書記を候補者に推戴。

5日 天道教創道130周年記念式(平壤)——南の天道教でも自主統一を神の啓示、天道の使命と見て天道教が主役を担うべき……北南天道教徒は同帰一体して一日も早く統一祖国を達成しなければならない。

6日 ▶『労働新聞』論評「金泳三のモスクワ訪問を論ずる」——「政治売春行為」「唾棄すべき政治的詐欺行為、背信行為」「反逆行為そのもの」「ソ連が根本原則に反して南朝鮮を『承認』して『二つの朝鮮』政策に加担するとは考えられない」。

▶金正日書記、植樹デーで平壤市内の青少年たちと記念植樹し、重要教示。

▶八・一五汎民族大会準備連絡委員会(ベルリン、～7日)、南北・海外の政党・団体・人士に送る書簡「同大会を民族の大祭典として盛大に開催しよう」。

7日 ▶第8回「四月の春親善芸術祭」開幕——世界60余国から100余芸術団、サーカス団の芸術人が参加。

▶全国学生少年芸術祭開幕。

8日 ▶全国青年熱誠者大会開幕(平壤の二・八文化会館で、～10日)6000余人と朝鮮総連青年活動家代表団参加。

▶南朝鮮貿易会社社員姜熙九(28歳)共和国に到着。

9日 ▶金主席、エチオピア副首相兼外相一行と会見。

▶全国青年熱誠者会議第2日——全青年が「党が決心すればわれわれは行なう」の信念で90年代の総進軍運動で先鋒隊、突撃隊の栄誉を轟かせることを強調。

▶韓民戦中央委声明——金泳三の訪ソを糾弾し、「もし、訪ソ結果についての報道が事実であれば、明らかにアメリカの韓国支配と占領を容認し、盧軍事独裁を支援して韓半島の分断永久化に協力する行為。……わが民衆の友人ソ連は、国民の敵の友人となってはならない」。

10日 ▶全国青年熱誠者大会閉幕——「労働党時代を輝かす栄えある闘争で青年英雄になろう」と強調。同日平壤市青年学生の決意集会、たいまつ行進。

11日 ▶金主席、全国青年熱誠者大会参加者と会見、祝賀、記念撮影。金正日書記ら最高幹部陣同席。

▶金主席、朝鮮総連活動家代表団と会見。金書記同席。

▶金主席の思想理論の偉大さと不滅の業績中央研究討論会開催、李鐘玉、鄭浚基、崔泰福出席。

▶鴨綠江連絡所に抗日革命闘争時期のスローガン樹木や革命遺跡、遺物を多数発掘し展示。

12日 ▶金主席誕生日に際し、キューバ大使が金主席を招き大使館で宴会。

▶平壤ヨーグルト工場操業式。果汁職場建設には国連工業開発機構が協力。

▶平壤市周辺の40%の水路工事完成、竣工式。

13日 ▶金主席、在日同胞に1億5800万円(日本円)の教育援助費と奨学金を送る。

▶大同江～黃海南道新院郡長寿湖の水路工事竣工式。

▶全国三大革命グループ・ロボット展開幕。

14日 ▶金主席、在日本朝鮮人祝賀団、朝鮮総連活動家代表団、朝鮮総連商工関係者一行と会見。昼食会。

▶朝鮮労働党・タイ社会行動党代表団間会談(平壤)。

▶『労働新聞』論説「朝鮮人民の革命的信念」——「われわれの信念は党と領袖を支持し革命を最後までしようとする熱火の忠誠心、常に領袖の周囲に結集する一心団結、いかなる環境の中でも良心と信義を守るゆるぎない誓い」。

▶黄海北道南江一ミル平野水路工事完成、竣工式。

15日 ▶四・一五金主席誕生78周年『労働新聞』社説「党と領袖の指導のもとに革命する、限りない民族的自負をさらに輝かせていこう」——「主席はとりもなおさずわが祖国であり、民族の運命である」。

▶四・一五記念朝鮮少年団全国連合団体大会。

▶平壤の長忠聖堂と鳳水教会で復活祭祈禱会。

16日 ▶金主席、タイ社会行動党代表団と会見。四・一五在米朝鮮人祝賀団、在カナダ朝鮮人祝賀代表と会見。

17日 ▶金主席、四・一五慶祝在ソ同胞祝賀団と会見。

▶金主席、「四月の春親善芸術祭」交歓公演観覧。

▶開城愛国被服工場(在日商人金仁権)操業式。

18日 ▶各地選挙区で最高人民会議代議員候補者推薦終了。

▶全国四・一五技術革新突撃隊員大会(～20日)——金書記が全工場、企業所に組織。10年間に大きな成果。

▶社労青中央委・朝鮮学生委、四・一九蜂起30周年で南朝鮮青年学生にアピール——「大衆的な反米抗争に果敢に立ち上がれ」「盧軍事独裁を一掃し、真の民主主義政権を樹立するために最後まで闘え」。

▶ミルリム・ユニ合弁会社操業式(咸興・横浜ユニ合弁)。人民生活の向上に要する各種製品を生産。

19日 ▶四・一九蜂起30周年記念平壤市報告会。

▶中央選挙委、687選挙区の候補者登録名簿を発表。

21日 ▶『労働新聞』社説「軍民一致の美風」——「人民軍は党と領袖を守る党の軍隊であり、領袖の軍隊」。

22日 ▶最高人民会議第9期代議員選挙施行。

▶『労働新聞』社説——「われわれの社会主義政権は金日成主席の指導のもとに朝鮮人民が長期間の苦難にみちた闘争を通じて鮮血で獲得した偉大な獲得物」。

23日 ▶金主席、中国人民解放軍親善参観団(李耀文上将・海軍政治委員)と会見。

▶朝鮮・キューバ両軍事代表団間会談、崔光総参謀長、洪季成少将等参加。

▶ソ連政府代表団(ニキーチン第一副首相)平壤着。

24日 ▶朝鮮人民軍創建58周年記念中央報告大会。

▶『労働新聞』社説「全人民の絶対的な支持と信頼を得るわれわれの社会主義政権は必勝不敗」。

▶全国建材部門熱誠者会議(～25日)。

▶孫成弼駐ソ新任大使、ゴ大統領に信任状提出。

↳呉振宇人民武力部長，キューバ軍事代表团（ロサルレス国防第一次官・総参謀長）と会見。

25日↳金主席，人民軍創建58周年で人民軍第837部隊を訪問祝賀。金正日ら同行，呉振宇ら出迎え。

↳最近，金日成総合大学大学院で新外国語自動翻訳機を開発。同院は89年に，常温核融合反応を実現し，原子エネルギー開発の幅広い道を切り開いた。

26日↳金主席，キューバ軍事代表团と会見。

27日↳『労働新聞』社説「技術革新 突撃隊活動を強化しよう」。

29日↳全国林業部門熱誠者会議（～30日）。

↳『労働新聞』論評「アジアの盟主たれんとする侵略勢力」——日本海部首相国会答弁を非難。

## 5月

1日↳メーデー100周年記念中央報告大会，祝賀レセプション，慶祝公演，交歓会，全国労働者体育大会。

2日↳各地寺院で釈迦聖誕節記念法要。

↳『労働新聞』社説「最も優れた社会主義制度のもとで暮らす誇りと栄誉」。

4日↳KBS 労組員弾圧糾弾平壤市記者・編集者集会。

5日↳朝鮮反帝闘士老兵委員会代表团（全文燮委員長・大将）ソ連訪問に出発。

8日↳朝鮮人民軍航空飛行隊（洪性律中將），ソ連国防省の招きでソ連公式訪問に出発。

9日↳外交部スポークスマン声明——日本当局による朝鮮総連機関への強制捜査を糾弾。

↳政党・社会団体連合会議開催。南朝鮮に生じた重大な政治情勢・人権事態と関連した緊急対策討議。

↳全国都市経営部門活動家熱誠者会議。

↳党代表团（姜成山）中国訪問に出発。

10日↳パレスチナ 国家 代表团（アラファト大統領・PLO 議長）平壤着（～11日）。金主席，アラファト大統領を迎接，会談，歓迎宴。

↳『民主朝鮮』紙論評，日本警察当局の東京朝鮮中高級学校と朝鮮総連事務所強制捜査を糾弾。

↳『労働新聞』論評，盧泰愚の7日「特別談話」は「懐柔と欺瞞，威嚇と恐喝で一貫した恥知らずな詭弁」。

↳駐朝ソ連大使館，祖国戦争勝利45周年で宴会。崔光総参謀長ら招待。

11日↳パキスタン人民党総裁ブット女史，平壤入り。（～15日）。

↳金主席・アラファト大統領第2回会談。

↳『韓民戦』中央委，「光州5.18宣言」を発表——「緊迫した時局はわが国民を五月の闘争広場に呼んでいる。全愛国民衆は血に染まった五月の旗を高く掲げ，闘争の

広場に向かおう！ 汎国民的な反軍政民主化闘争で民自党を粉碎し，盧「政権」を打倒しよう！ 一つの国民連合戦線に結集し，五月の光州で達成できなかった意志を実現しよう！」。

12日↳金日成・ブット女史会談。主席歓迎宴。

↳祖国統一民主主義戦線中央委，南朝鮮人民に送るアピール文発表——「南朝鮮でアメリカの植民地支配を終わらせ，米軍と核兵器を撤収させる民族を挙げた反米闘争に総決起すべきである。盧泰愚を退陣させる民主抗争をさらに力強く繰り広げるべきである」。

↳『労働新聞』論評「KBS 労組員は最後までたたかうべきだ」。

13日↳エジプト・ムバラク大統領，平壤着。金主席，李鐘玉，金永南，崔光ら空港出迎え（～14日）。金日成，ムバラク会談，歓迎宴。

14日↳北南高位級会談予備会談北側代表团長，南側首席代表に電話通知文——第7回予備会談日時は当方が適当だと認める日時を通知する。

↳米軍兵士の遺骨数体を28日に米議会議員を通じ米側に引き渡すと発表。

↳金・ムバラク単独会談。ムバラク大統領平壤出発。金主席ら見送り。

↳ソ連海軍総政治局代表团（グレベニェク副総局長・中將）空路平壤入り。

15日↳李鐘玉，中国監察部代表团（何勇次官）と会見。

↳南朝鮮戦艦が西海（黄海）共和国領海深く不法進入する重大な軍事的挑発。

↳『労働新聞』論説「瞬間を生きても英雄的に生きよう」——「主席の偉業に対する限りない献身性をもつ人間は誰もが英雄になれる。人間は長生きしたからといって価値あるものではない。人間は瞬間を生きても英雄的に生きなければならない」。

↳西海開門—信川—康翎—甕津間延べ130余\*。水路完成，竣工式（黄海南道信川郡）。

16日↳咸鏡南道でここ数年300余の中小水力発電所を建設し，中小発電所電力による生産体系に移る。両江道各郡では多くの単位で自家発電照明・暖房などを実施。いま多数の中小水力発電所を建設中。

↳速度戦青年突撃隊創立15周年記念報告会——金書記が75年5月に結成。延べ1300余\*。の新鉄道電化工事を遂行，国際親善展覧館はじめ145対象を建設。

↳『労働新聞』論説「未来を輝かす革命的自負」——「すべての勝利の根本要因は党と領袖の指導。わが祖国はとりもなおさず金日成主席である」。

17日↳金主席，中国親善参観団（王群党中央委員・モンゴル自治区党委員会書記）と会見。

▶光州人民蜂起10周年記念平壤市民大会(牡丹峰青年野外劇場, 1万余市民)——「盧泰愚は南朝鮮人民の一一致した要求どおり権力の座から退くべきである」。

18日 ▶金日成主席文庫集「青年は社会主義建設で前衛隊, 突撃隊になろう」出版。

▶朝鮮・ガーナ政府代表団間会談。政府歓迎宴。

▶朝鮮労働党・マリ人民民主同盟代表団間会談。

20日 ▶金主席, 朝鮮総連結成35周年で祝賀文。

21日 ▶『労働新聞』論評「独裁者の危険な売国と物乞いの訪問」——盧泰愚の訪日を糾弾。

22日 ▶金主席, ガーナ政府代表団, マリ党全国学校代表団とそれぞれ会見。

23日 ▶朝鮮労働党中央委第6期第18回総会。(1)「国家・政府構成案に対する提議」決定。組織問題: 崔光, 韓成竜を政治局員に, 崔泰福, 金赫万, 崔永林を同委員候補に補選。(2)許鏞を党書記職から解任, 金容淳を国際担当書記に選出。(3)金益鉉を中央委員, 金必渙, 金利龍, 金格植を同候補に補選。

▶『労働新聞』論説「思想と指導の唯一性保障は党の生命」——「領袖の思想のみが支配し, 行動における一致性を保障する党のみが, 使命と任務を全うし代を継いで固守することができる。思想と指導の唯一性を保障する党の闘争は金書記の賢明な指導によって根本的な転換が起こった」。

24日 ▶最高人民会議第9期第1回会議開幕(～29日)。議案:(1)主席選挙, (2)国家指導機関選挙, (3)1989年度国家予算執行の決算と1990年度予算。金日成を国家主席に推戴, 副主席, 国防委員会, 中央人民委員会, 最高人民会議常設会議, 中央検察所所長(任命), 中央裁判所所長, 政務院総理を選挙。政務院メンバーを発表。延総理が金主席に宣誓。法案審議委員会, 予算審議委員会, 外交委員会, 統一政策審議委員会を選挙。

▶金日成施政演説「わが国社会主義の優位性をさらに高く発揮させよう」。

25日 ▶最高人民会議第2日会議。「89年度決算と90年度予算」について尹基貞財政部長報告。

27日 ▶「韓民戦」声明, 盧泰愚の日本訪問を糾弾——「盧は当然, 訪日の犯罪行為を全国民の前に謝罪し, 即刻退陣すべきである」。

28日 ▶ウガンダのムセベニ大統領, 平壤着。金主席迎撃。『労働新聞』歓迎社説。

▶最高人民会議代議員が板門店で米議会議員に米軍遺骨5体を引き渡す。

▶『労働新聞』社説「金日成主席の施設演説は革命完成の綱領的指針」。

29日 ▶金主席・ムセベニ大統領会談。歓迎宴。

▶外交部スポークスマン声明——日本当局の「謝罪」を認めない。

30日 ▶金主席, ムセベニ大統領2回目の会談。

31日 ▶金主席, ムセベニ大統領単独会談。

▶朝鮮・ウガンダ政府間経済・技術協力合意書調印。

▶金主席, キューバ勤労者中央代表団・キューバ諸人民間の友好協会代表団と会見。

▶中央人民委・最高人民会議常設会議・政務院連合会議——朝鮮半島で緊張状態を緩和し平和を保障するための新しい措置を講じることを討議。「朝鮮半島の平和のための軍縮提案」(10項目)を採択。

▶外交部スポークスマン・コメント——「ゴ大統領・盧泰愚会見が実現すれば, わが国の分裂を固定させ, 関連する深刻な政治的問題になるであろう」。

▶アフリカ諸国の党活動家代表団平壤入り(マダガスカル, ブルキナファソ, マリ, トーゴ, ブルンジ, コンゴ)。

▶『労働新聞』論評「時代の流れに逆らう侵略と売国の犯罪的陰謀」——盧泰愚の訪日を糾弾。

## 6月

1日 ▶金主席, 中国人民解放軍総政治部歌舞団団長ら歌舞団指揮メンバー, 主要俳優と会見。同公演観覧。

▶『労働新聞』署名論説「チュチェ思想の旗じるしのもとに前進するわが社会主義は必勝不敗」——「ブルジョア自由化のどのような些細な要素も絶対に許さない」「わが人民が堅持している信念は金主席の指導下に社会主義建設で収めた全成果と業績を断固として守り, 永遠に発展させようとする継承性の信念」。

2日 ▶金主席, 一般大衆消費物資展示会を視察。

▶全国軽工業大会開幕(～4日)。金書記書簡「軽工業革命を徹底的に遂行するについて」伝達。延総理演説。

▶西ベルリンで「祖国の平和と統一のための汎民族大会」実務会談(～3日)——北, 米, 加, 欧州, 日, ソ在住海外同胞代表参加, 11項目の合意書採択。8月13～17日に板門店で大会開催。

4日 ▶諸政党・社会団体連合会議——「全民族的な統一戦線組織として民族統一準備委員会を設ける」。

▶ソ連空軍代表団(ワレチン・バンキン空軍総司令官第一副司令官兼参謀長・空軍上將)平壤着。

▶『労働新聞』社説——連合会議軍縮提案に「どう対応するかは, 米・南朝鮮当局が平和と平和統一を希望するか否かを分かち試金石」。

5日 ▶万景台工作機械工場で製図ロボット, 西平壤機関車隊で溶接ロボット, 金鍾泰電気機関車連合企業所でプラズマ切断ロボットを, 三大革命グループ員が製作。

▶エチオピア政府経済代表団（ウェリイ・チュコル副首相）平壤着。

7日 ▶「韓民戦」中央委声明——盧・ゴルバチョフ会談（5日）は「民族の根本利益に背いて同胞の統一志向に逆行する反平和、反統一の罪悪で凝結した許し難い民族反逆の取り引き場」「わが国民は、クレムリンの態度に疑惑を持たざるをえない」。

▶中央人民委政令で平壤市菜浪区域の新設通りを「統一通り」と命名。「統一会館」を建設決定。

8日 ▶朝鮮・ブルキナファソ政府代表団間会談。

▶ソ連空軍代表団歓迎の軍人集会。

9日 ▶中部東海岸、江原道通川郡一帯を保養地、観光地として整備中。

▶『労働新聞』社説「一般消費品の生産で新転換を」。

10日 ▶朝鮮、エチオピア両政府間共同委第5回会議議定書、90～91年度商品流通議定書調印。

▶『労働新聞』社説「英雄的な六月抗争3周年」。

11日 ▶金主席、エチオピア政府経済代表団、フィリピン議会代表団、ブルキナファソ政府代表団と会見。

▶『労働新聞』社説「民族的誇りと自負を高める教育を強めよう」——「朝鮮民族第一主義精神は、朝鮮民族の偉大さをさらに輝かせようとする高い自覚と意志として表れる気高い思想感情。民族的教育で最も重要なことは、党と領袖の偉大さを深く体得し、党と領袖の指導を心から受け入れるようにすること」。

12日 ▶金主席、中国最高人民検察院代表団と会見。

▶祖国平和統一委書記局記者会見——朝鮮半島は一触即発の戦争の瀬戸際に置かれている。

▶鄭義駐朝中国大使、中国人民対外友好協会・中朝友好協会代表団（張逢雨江蘇省人民政府副省長）平壤着。

▶『労働新聞』論説「朝鮮革命の主体は最も強力で不敗のもの」——「領袖、党、大衆が一心団結をなす朝鮮革命の主体は歳月が流れても変わりがなく、風波が激しくともゆるがない最も強力で不敗のもの」。

13日 ▶朝鮮労働党・タンザニア革命党代表団会談。

▶政府科学技術代表団（李子方国家科学技術委員長）ソ連訪問に出発。

▶『労働新聞』論評「侵略歴史を繰り返そうと」——日本の武力増強を非難。

14日 ▶米学者代表団（ミネソタ総合大学マクウィット教授）とスタンフォード大学国際安全・軍備統制センターのジョン・ルイス共同所長一行、平壤到着（朝米学者討論会出席のため）。

16日 ▶金主席、デンマーク共同偉業労働者党代表団と会見。

17日 ▶金主席、タンザニア革命党代表団と会見。

▶『労働新聞』論説「全民族的統一戦線形成は祖国統一の担保」。

▶黄海南道で50余点の革命スローガン文献と革命遺跡・遺物を発見。

18日 ▶金主席、中国丹東市党代表団と会見。

19日 ▶金正日書記が最近两江道と慈江道を現地指導。——白頭山地区革命戦跡地、南浦大温室農場、北部鉄道などを視察、両道各部門活動を把握し重要課題提示。

▶カンボジア国民政府大統領シヌーク殿下平壤着。

▶黄長燁書記、アメリカ学者代表団と会見。

20日 ▶金主席、AA人民連帯機構代表団と会見。

▶国会議員協議北側代表団長・高位級会談予備会談北側代表団長が、南側首席代表らに電話通知——対話を再開することにしたとし、6月28日に第7回予備会談開催、7月12日に第11回板門店協議開催を提案。

22日 ▶『労働新聞』論説「外国勢力と売国者の共謀結託を断固粉碎しよう」——日韓の結びつきを糾弾。

23日 ▶『労働新聞』論評「侵略的な共謀結託の犯罪的行路」——米日「安保条約」の堅持を糾弾。

25日 ▶「六・二五反米闘争デー」平壤市民大会、デモ（25万人参加）。

▶『労働新聞』社説「米侵略者は恥ずべき滅亡を免れない」——「朝鮮半島で新たな戦争の危険が日ごとに高まっている」。

▶『労働新聞』論説「党が決心すれば、われわれは行なう」——「これは党に対するわが人民の絶対的な信頼と燃える忠誠心を反映したきわめて立派なスローガン」。

27日 ▶軽工業代表団（李吉斗副委員長）ソ連訪問に出発。

29日 ▶平壤光復街に金星第一高等学校新設。

30日 ▶金正日書記劍徳鉉業連合企業所現地指導15周年記念中央報告会（現地）。

## 7月

2日 ▶『労働新聞』論評「青瓦台逆賊の偽公約と白昼のたわ言」——盧泰愚の6.29演説を糾弾。

3日 ▶北南高位級政治軍事会談第7回予備会談——名称、平壤・ソウル交互開催、議題、代表団構成などで合意、実務手続き討議すべて終了。

▶共和国政府・政党・団体代表連合会議共同声明（4日発表）——「民族統一協商会談」の早急招集を主張。「北南高位級会談の成果的推進で最高位級会談の道が開かれることを期待」（南側は）『二つの朝鮮』政策放棄、最小限「チームスピリット」演習中止、『国家保安法』撤廃、文牧師・林秀卿ら愛国的民主人士と青年学生釈放など、対話と祖国統一意思を行動で示すべきで、こうした初歩的態度の表示なくして分裂路線をそのまま持ち出



せば最高位級会談で解決するものは何もない」。

▶キリスト教連盟代表団(高基俊書記長)日本訪問に出发。

5日 ▶金日成主席、エクアドル議会議長一行と会見。

▶祖国平和統一委声明——政府・政党・団体連合会議の委任で、8月15日から板門店地域を開放する。

6日 ▶『労働新聞』論説「アメリカのアジア戦略と対日共謀結託の強化」——「米日軍事的共謀結託は朝鮮で戦争を起こすことを当面の目標にしている」「朝鮮における新戦争挑発は米日反動の共通した要求であり目的。朝鮮戦争を挑発してその炎をアジア大陸に拡大することがアメリカの企みで、朝鮮半島でアジア再侵略の序幕を上げることが日本軍国主義者の企み」「こんにも米日反動は朝鮮戦争挑発の機会のみを窺っている」。

8日 ▶林秀卿、文筆鉉神父釈放を促す平壤長忠聖堂の信者特別祈禱会。

10日 ▶『労働新聞』論説「われわれの方式の社会主義は民族的誇り」。

▶『労働新聞』論評「アジアの『盟主』をめざす日本の武力増強」。

11日 ▶金主席、ゴルバチョフ書記長再選で祝電。

▶朝鮮・ナイジェリア製薬合併プラノソソ万年国際株式会社操業式(ナイジェリア・オンゴボ)。

15日 ▶尹基福・汎民族大会北側準備委員長談話発表——大会を民族団結の祝祭とするため全力を傾注。

▶外交部スポークスマン談話——ヒューストン・サミット議長声明(ブッシュ米大統領)の共和国中傷を非難。「アメリカが共和国に対する核の脅威を除去しさえすれば、われわれはいつでもIAEAと保証協定を締結する万端の準備が整っている」。

▶ソ連抑留朝鮮遠洋漁業会社の漁船12隻が14日すべて帰還と発表——ソ連側の「好意的な態度」により賠償金のみ支払い帰還。

▶『労働新聞』論説「チュチェ革命促進で不滅の貢献をした文献」——金正日文献を記念。「書記の功績は、チュチェ思想が人類の普遍的思想であることを明らかにしたこと」。

17日 ▶北南国会議員会談北側代表団長、南側団長に電話で19日予定の第11回会談を当分延期と通知。

▶金主席、ドミニカ労働党代表団と会見。昼食会。

▶祖国民主主義戦線中央委声明——南の国会本会議における国軍組織法改正案、放送関係法改正案など抜き打ち通過を糾弾。「盧独裁集団は民族内部で共存できない自主、民主、統一の悪どい敵であることを証明」。

▶『労働新聞』論説「党の強化は革命の主体強化の基本」——「革命の主体は領袖、党、大衆の統一体であり、

それは不可分の関係で有機的に結ばれた生命体」。

18日 ▶南北自由往来と全面開放を実現するための平壤市民集会——コンクリート障壁解体南北共同推進委員会北側委員会(委員長・張徹副総理)を結成。

▶外交部スポークスマン談話——南北対話再開は自主政策から出発したもので「決して何かの外部的影響によるものではない」。

19日 ▶中国外交部スポークスマン報道発表——中韓関係に言及「南朝鮮と公式関係を結ばないという中国政府の立場には変わりがない」。

20日 ▶祖国平和統一委、政府・政党・団体委任声明——南当局者の『特別談話』は欺瞞的な宣伝広告。コンクリート障壁解体、無制限自由往来のため障壁解体北南共同推進委構成を提案。

21日 ▶朝鮮・マリ政府代表団問会談。

▶朝鮮労働党・日本社会党代表団問会談(～22日)。朝鮮側金容淳、金養建、日本側田辺、久保。

22日 ▶金主席、マリ政府代表団(トラオレ外務・協力相)と会見。

23日 ▶金主席、パキスタン政府経済代表団、ニジュール「発展する社会の国民運動」・政府代表団とそれぞれ会見。

▶平壤産院開院10周年、金正日書記贈物伝達式。

▶延総理の盧大統領・民自党総裁、姜英勲総理宛書簡を板門店で手交。平民党金大中、民主党李基沢両総裁にも。当局・各政党代表7月27日実務接触を提議。

24日 ▶祖国平和統一委声明——南当局「三部長官合同記者会見」の「後統措置」を批判。「その企図は、準備の整った他人の家の宴会に強盗を送り込んでテーブルをひっくりかえすがごとき悪行」「こうしたばね策で南北関係を『政権安保』に利用しようとするのは、統一問題をもてあそぶ許し難い反民族犯罪行為」。

▶延亨黙総理、南姜総理に電話通知文——当局・各政党首脳協商会議実務協議の27日開催を希望。汎民族大会第2回予備会議参加北側代表団のソウル訪問実務討議を26日板門店で行なうよう提案。

26日 ▶北南高位級会談第8回予備会談「合意書」採択。

27日 ▶祖国解放戦争勝利37周年記念平壤市動労者決意集会。「労働新聞」社説「祖国解放戦争勝利37周年」。

28日 ▶汎民族大会北側準備委声明、南当局の妨害策謀糾弾。第3回予備会議の平壤開催を南の全民連に提議。

▶全国貯金部門活動会議(～29日)。

29日 ▶外交部スポークスマン声明——「アメリカは共和国に関係もない『テロ行為中止』を要求し『核保証協定』問題を持ち出して中傷し対話を妨害」「一部の国々が、朝鮮に『二つの国家』が存在するかのよう強調し

て対南朝鮮『外交関係』樹立の可能性まで云々するのは、統一を妨害し分断を固定しようとする行為」。

31日 ▶金主席、キューバ共産党代表団と会見。

▶国際民間航空機関(ICAQ)理事会議長ら訪朝(～8月4日)、南北朝鮮通過の北京～東京間航路開設問題で。

## 8月

1日 ▶『労働新聞』論評——海部首相発言に見られる日本支配層の膨張野望を非難。

2日 ▶『労働新聞』論説「全党のチュチュ思想化方針を示した文献」——金書記1974年文献を記念。

▶金書記文獻「科学技術をさらに発展させるために」(1985年8月3日)5周年記念報告会。

▶この数日間全国的な豪雨、とくに激しかった大同江流域で上流の大同江発電所、下流の順川・成川・烽火・美林・西海開門と護岸で洪水被害を防止。

3日 ▶延亨黙総理、国際民間航空機関(ICAQ)代表団と会見。

4日 ▶延亨黙総理、南の姜総理宛電電話通知で南北当局・各政党首脳協商会議開催のための実務協議を促す。

▶『労働新聞』論説「必勝の信念はわが人民の気高い品性」——「必勝の信念の根本は党と領袖の偉大性への確信。党の指導についていけば常に百戦百勝する確信」。

5日 ▶『労働新聞』論評「『各界各層』論は汎民族大会破壊論」。

6日 ▶汎民族大会準備第3回予備会議(平壤、～7日)、北側準備委スポークスマン南当局を糾弾。

▶『労働新聞』社説「チュチュの社会主義に対する信念」。

7日 ▶日本社会党朝鮮問題対策委嶋崎譲事務局長平壤着。

▶汎民族大会第3回予備会議終了。「最終合意共同宣言文」発表——8月13日「祖国統一大行進」白頭山出征式、8月14日研究討論会、8月15日板門店大会、等。

▶間白山密営地(白頭山・小白山間原始林中)竣工集会、金主席教示碑除幕。

▶汎民族大会南側推進本部黄哲暎代表、平壤着。

8日 ▶金主席、シアヌーク・カンボジア国民政府大統領、セーシェル政府代表団とそれぞれ会見。

▶朝鮮・セーシェル政府代表団間会談。

▶政府代表団(鄭松男対外経済事業部長)エチオピアとウガンダに出発。

▶政府金属工業代表団(崔満頭金属工業部長)キューバへ出発。

10日 ▶遼島革命史跡地竣工、統一戦線塔除幕式(48年に金日成主席が南北連席会議参加の南朝鮮政客と歴史的

協議会を開催)。

12日 ▶朝鮮労働党・ルワンダ国家開発革命運動(MRN D)代表団間会談。

▶『朝鮮の平和と統一のための世界祈禱日曜礼拝』を平壤鳳水教会で開催。

▶『労働新聞』評論——「イラクのクウェート『統合』は、国際法と諸国間の相互関係原則や規範に甚だしく抵触。こうしたことが世界のいかなる地域でも、何人にも許容されてはならない」「湾岸地域における一切の軍事行動が即時中止されなければならない」。

▶『労働新聞』論説「革命の主体強化は社会主義の根本問題」。

▶两江道豊山郡を金亨権郡、豊山邑を金亨権邑、同郡把撥高等学校を金亨権高等学校と改称。

13日 ▶白頭山頂で汎民族大会開幕式、祖国統一促進白頭一漢撃大行進出発式。

▶ソ連軍隊記者代表団・ソ連戦争老兵委員会、ソ連対外友好文化連絡協会開催、ソ連友好協会、各代表団が平壤着。

14日 ▶祖国解放45周年で金主席、ゴルバチョフ書記長と祝電交換。平壤市民記念集会。

▶ソ連太平洋艦隊戦隊、元山港入港。ソ連航空軍飛行隊到着。元山で艦隊歓迎元山市民集会。

▶祖国・平和と統一研究討論会(平壤)。1600余人が参加。平和、統一、運動の3分科。汎民族大会代表歓迎平壤市民集会、15万市民が参加。

15日 ▶金主席、祖国解放45周年を記念して幼稚園児芸術総合公演を観覧。

▶汎民族大会(板門店)。「決議文」：(1)祖国統一の平和的環境を整えるため積極努力。(2)北南間自由往来・全面開放実現のために全力。(3)連邦制統一実現に極力努力。(4)統一対話に積極的参加。(5)自主統一のための連帯共同闘争を力強く展開。(6)統一愛国勢力を拡大強化。

▶大会後、板門店で合土祭・記念植樹。「統一文化祝祭」開催。『労働新聞』、『民主朝鮮』紙祝賀社説。

▶汎民族大会を支持歓迎する朝鮮カトリック教徒の祈禱会(平壤・長忠聖堂)。

▶金日成主席、北と南、海外の愛国人士112人に「祖国統一賞」を授与する中央人民委政令を公布。

16日 ▶金主席、咸鏡北道内の五月十日工場、咸北造船の衣食住はじめ経済部門各単位を現地指導(～9月3日)。道経済活動家協議会を招集して綱領的指針教示。

▶日本社会党「日朝友好親善の船」訪問団(田並広報局長)「三池淵」号で元山着。元山市民歓迎集会。

▶セント・ビンセントグレナディーンと外交関係再開(キングズタウン)。

17日 ▶『労働新聞』論評「同胞を愚弄した盧の『光復節慶祝辞』」。

19日 ▶アジアの平和と朝鮮の自主的平和統一(日朝)連帯集会(平壤)。「決議文」採択。

20日 ▶朝鮮中央通信、汎民族大会過程で、盧泰愚は南人民を愚弄し冒瀆した嘘つきであったと詳細報道。

21日 ▶キューバ大使、カストロ首相誕生64周年で金日成主席を宴会に招待。

▶『労働新聞』論説「わが社会主義の優位性と威力の根本」——「偉大なチュチェ思想を指導的指針にしているから」。

▶朝鮮中央通信「強力な自立的民族経済」——89年の国家工業総生産高は解放翌年の46年比554倍。

22日 ▶金主席、中国遼寧省党代表団、山東省友好代表団と会見。

▶石炭工業部代表団(金利龍部長)訪ソに出発。

23日 ▶金日成主席、在ソ朝鮮人祖国訪問団と会見。

▶中国軍事友好代表団(秦基偉国防部長)平壤着(～30日)、呉振宇と会談。人民武力部歓迎宴。

▶人民海軍艦隊(権尚鎬中將)ソ連友好訪問に出発。

24日 ▶『労働新聞』論説「人民軍隊はチュチェ革命家の共産主義学校」。

25日 ▶『労働新聞』論説「民主化と祖国統一のためにたたかうべきだ」——「南朝鮮だけは依然として米植民地軍事基地。ファッショ独裁社会として残されている。南人民は米植民地支配を一掃して日本反動の再侵略策謀を粉碎し、盧泰愚軍事独裁を打倒して民主化と祖国統一を早めるためにさらに力強くたたかうべき」。

26日 ▶金日成主席、中国軍事代表団と会見。

▶朝鮮・モザンビーク党・政府間会談。

27日 ▶金日成主席、モザンビーク代表団、イタリア国際関係研究所パロリ書記長と会見。

▶国連開発計画の協力対象である気象水文局気象衛星受信所竣工式。

28日 ▶『労働新聞』論評で「国連単独加盟」を囂る南朝鮮当局者の分裂外交を糾弾。

29日 ▶金正日書記の金日成総合大学指導30周年中央研究討論会。

▶共和国・国連開発計画間協力対象合意書調印(平壤)——科学院威興分院の科学実験器具研究所近代化(3年間)。これに先立ち、光ファイバー通信用インパルス符号変造重疊機協力も合意。

▶慈江道満浦地区に七月四日肥料工場を建設する。

30日 ▶外交部スポークスマン、湾岸情勢で立場表明。

▶社労青代表団(崔龍海委員長)、ベトナム、ラオス訪問に出発。

▶平壤外語大で林秀卿に卒業証書授与。

31日 ▶全国仏教徒の祖国統一祈願法令(妙香山・普賢寺)「南朝鮮と海外同胞仏教徒に送るアピール」。

▶『労働新聞』論説「独裁集団の『国連加盟』企図を絶対許さず」。

▶『労働新聞』論評「海外派兵に奔る日本反動」。

## 9月

1日 ▶第2次日本社会党友好参観団(左近衆議院議員)、元山港着。歓迎市民集会。

2日 ▶金永南・シュワルナゼ外相と会談。

▶『労働新聞』署名論評「乱心の軍事大国化策動」——日本軍国主義者の軍備拡張を糾弾。

▶『労働新聞』論説「革命伝統の継承発展についての思想理論」——金書記の最近発言による。

3日 ▶朝ソ政府間「朝ソ国境秩序に関する条約」「朝ソ国境設定に関する議定書」締結・調印。シュワルナゼ外相空路平壤を出発。

▶朝米反戦・反核団体と社会活動家の討論会開幕。金容淳書記祝賀演説(～4日)。

▶『労働新聞』論評「危険な(日本)海外派兵陰謀」。

▶『労働新聞』社説「社会主義祖国を輝かせよう」。

4日 ▶第1回北南高位級会談北側代表団(延総理)一行ソウル着。歓迎夕食会。

▶日本社会党・自民党両党代表団(久保副委員長・石井外交調査会長代理)平壤着。

5日 ▶第1回南北高位級会談(ソウル)、延総理3原則、3緊急問題を提案。政治軍事的対決状態解消方案、軍事的対決状態解消方案を提起。

▶朝鮮労働党、日本社会・自民両党代表団間会談。

6日 ▶北南高位級会談第2日目、双方提案を討議。

▶北側代表団、青瓦台に盧大統領訪問。

7日 ▶金主席、共和国創建42周年で在日同胞子女に1億4350万円の教育援助費・奨学金を送る(116回目)。

▶中国共産党幹部代表団(高揚中央顧問委員)平壤着。

▶テゴソ一鳳倉一汗嶺間約32\*の鉄道電化工事完成。

▶清南輸出被服工場(安州地区)操業開始(年産数百万着。全工程オートメ化)。

8日 ▶共和国創建42周年記念中央報告大会。

9日 ▶金主席、タイ国会代表団と会見。

▶共和国創建42周年祝賀宴会。呉振宇、李鐘玉、朴成哲、延亨黙ら出席。李鐘玉演説。

10日 ▶『労働新聞』論説「真の祖国愛で朝鮮を輝かせよう」——「領袖は即祖国、祖国愛の領袖への忠実性」「こんにち最大の愛国は偉大な領袖を戴き朝鮮を輝かせることにある」。

11日 ▶『労働新聞』論説、南朝鮮当局者たちの「民族共同体統一案」を非難。

12日 ▶朝鮮代表団(姜錫柱外交部第一副部長)国連総会第45回会議出席のため平壤出発。

13日 ▶全国財政銀行活動家大会(～14日)、金正日書記書簡「財政銀行事業を改善するために」伝達。延総理報告——「全工場、企業所で独立採算制を正しく実施し、増産・節約闘争をより力強く展開すべきだ」。

▶『労働新聞』党創建45周年社説——「今年の党創建記念日は偉大な指導者、社会主義擁護者としてわが党の尊敬と栄誉が限りなく輝き、党と領袖の指導に従ってチュチェの社会主義を最後まで完成しようとするわが人民の決心がより強固な時期に迎える」「全部門、単位で今年度計画を繰り上げ完遂するたたかいを力強く展開すべきだ」。

17日 ▶『労働新聞』論評「緊張を激化させる策謀」——日本のアジア太平洋地域から米軍撤収反対、米軍兵力維持支援、湾岸米軍兵力維持費用負担を非難。「武力で『大東亜共栄圏』の昔の夢を実現しようとするのは、日本支配層の変わらざる野望」。

18日 ▶金主席、中国共産党幹部代表団と会見。

▶国連加盟問題協議北南高位級会談代表会談——北側「北南単一議席加盟提案」を提示。

▶共和国赤十字会委員長代理が汎民族統一音楽会(10月18～24日、平壤)に南側10人を招請。

19日 ▶『民主朝鮮』紙論評「朝鮮の統一に妨害となる行為」——ソ連『イズベスチャ』紙記事と関連。朝ソ外相会談時の北朝鮮側「備忘録」公表。(1)朝鮮の分裂「現状」を認め分裂状態を固定化し「二つの朝鮮」を国際的に合法化する。(2)ソ連は他国と根本的に違い、第二次世界大戦以降、アメリカとともに朝鮮を分裂させた責任ある国、また朝鮮民主主義人民共和国を最初に朝鮮民族の唯一の合法的國家と認めた国。(3)南朝鮮の「北方政策」を実現させる。(4)共和国での社会主義制度を覆そうとする米・南朝鮮の共同陰謀に加担し三角結託関係を形成。(5)朝ソ同盟条約を有名無実化。(6)全朝鮮人民、特に南朝鮮人民の統一意志を阻む。

21日 ▶咸鏡北道鏡城陶磁器連合企業所七月六日陶磁器工場が操業開始。

▶北南高位級会談北側代表団スポークスマン声明——南朝鮮当局者の国連「単独加盟」実現企図に深い憂慮と遺憾の意を表明。

▶『労働新聞』論説「『民主主義』喧伝の本質」——「社会主義を变质させ資本主義へと逆戻りさせる反動の本質。『政治的多元主義』導入の方法で労働者階級の党とその指導を除去し社会主義政治の労働者階級の性格を抹殺し

ようとしている。『経済的自由化』も社会主義の資本主義への『平和的移行』の道を開くため」。

22日 ▶北京で第11回アジア競技大会開幕。南北スポーツ関係者共同応援合意、共同記者会見。

24日 ▶自由民主党代表団(金丸信元副総理)、日本社会党代表団(田辺誠副委員長)平壤着。朝鮮労働党中央委員会、歓迎宴(玉流館)、金容淳書記演説。

▶ベトナム政府代表団(チャン・ルム重工業相)平壤入り。

25日 ▶朝鮮労働党(金容淳)と自由民主党(金丸)・社会党(田辺)代表団団長級会談。

▶日本自由党・社会党代表団、交歓会開催(人民文化宮殿)。兩代表団、万景台等平壤各所を訪問。金日成競技場で5万人大マスゲーム「一心団結」を観覧。

26日 ▶金主席、自民・社会両党代表団と会見。金丸・田辺は海部親書、土井親書を各々伝達。

27日 ▶金主席、自民党金丸団長と会見、友好的な雰囲気なかで談話を交わし昼食会(妙香山)。

▶朝鮮労働党・自民党・社会党団長2回目会談——過去36年間の朝鮮植民地支配・戦後45年間朝鮮人民に与えた損失に対する日本の謝罪と贖罪、朝日国交正常化・各分野交流など朝日関係改善問題を討議。三党会談結果文書化で内容討議。第18富士山丸船員を共和国政府の人道的措施に基づき10月中旬に帰還させる問題も討議。

▶朝日政府間実務会談——外交・貿易・航空運輸・通信部門実務関係者、関係改善懸案問題で意見交換。

▶アジア競技大会取材の南北朝鮮記者団が協議、大会報道で共同歩調を取る合意事項に署名。

▶『労働新聞』論説「南朝鮮での核兵器維持は正当化できない」。

28日 ▶朝鮮労働党、自由民主党、社会党三党会談「朝日関係に関する三党共同宣言」採択。自民・社会両党代表団帰国。

▶人民軍三大革命赤旗獲得運動先駆者大会(～29日)。

29日 ▶南北スポーツ関係者北京で共同記者会見。男女サッカー競技を平壤とソウルで開催することを発表。

## 10月

3日 ▶『労働新聞』社説、10月祝日を迎え全党员・労働者に対し社会主義建設の大高揚を呼びかけ。

4日 ▶『労働新聞』朝日関係改善に干渉する米を非難。

▶『労働新聞』金正日書記論文「朝鮮労働党はわが人民のすべての勝利の組織者、嚮導者である」(『勤労者』90年第10号)を全文掲載。

5日 ▶『労働新聞』論評「ドルで売り買いする『外交関係』」——ソ韓「外交関係」樹立を糾弾。「現在のソ連

はかつてのソ連ではなく、別の性格の国家に変質し『新しい友人』を求め、自身の利益のためには他国、他民族、果ては同盟国の利益を侵害するのともためらわない。

▶国連単一議席加盟問題第2回協議会——北側代表、『実体認定論』を非難。

▶大徳山合弁会社(北青郡・在日愛媛県商工会)操業式(魚乾燥加工など機械化・オートメ化)。

6日 ▶金主席、インド元大統領シン氏一行、党創建45周年慶祝在日本朝鮮人祝賀団(韓徳鉄)と会見。

▶北南高位級会談北側代表団、責任連絡員協議(9日)を提案、金裕淳国家体育委員長も南北サッカー競技実務協議(8日)を、赤十字会中央委員会も汎民族統一音楽会(18日、平壤)に南側参加実務協議(8日)を通知。

▶『韓民戦』中央委声明——韓ソ「修交」に「韓国民衆は嘆きと怒りを禁じえない」「国交とは自主的な主権国家間に適用される通用語で、従属的な国と独立的な国の間にはありえない」「韓国は自主的な独立国ではなくアメリカの支配と保護下にある植民地属国」「わが民衆は盧政権の韓ソ『修交』行為を徹頭徹尾、大国に身をゆだねて国土分断を国際化・永久化するための反統一的犯罪行為として断罪する」「韓ソ『国交樹立』の全面無効を内外に宣言する」。

7日 ▶金主席、宋平・中国共産党中央政治局常務委員一行、中国共産主義青年団代表団、イラン政府代表団と会見。

▶『労働新聞』論評「米がまず核威をなくせ」。

8日 ▶金日成主席、マダガスカル共和国ラチラカ大統領を迎接。歓迎宴。

▶金日成主席、平壤市在住の党指導機関幹部らの記念撮影、金正日書記ら党最高幹部列席。

▶『労働新聞』社説「党の強化発展と社会主義偉業の遂行で不滅の意義を持つ綱領的文献」——金正日書記論文を全面礼讃。

▶金主席の千里馬製鋼連合企業所現地指導45周年で現地記念報告会、慶祝公演、夜会、たいまつデモ。

9日 ▶日本社会党代表団(土井委員長)平壤着、金主席会見。昼食会。

▶朝鮮・イラン政府代表団間会談。

10日 ▶朝鮮労働党創建45周年記念中央慶祝報告大会。金主席、金書記ら参加。李鐘玉慶祝報告。

▶金主席、日本の自由民主党代表団(小沢幹事長)、久野日朝議連前会長一行と会見。ともに昼食会。

▶金主席、日本社会党田辺誠副委員長と会見。

▶金日成主席、朝鮮労働党創建45周年慶祝宴を催す。世界126カ国の代表団・代表・人士招待。

11日 ▶朝鮮中央通信委任報道——「第18富士山丸」船

長・機関長に大赦令を実施の、日本社会党・自由民主党代表団が帰国の際連れ戻るようにした。

▶金主席、ラチラカ大統領会談。同大統領平壤出発。

▶金主席、中国・宋平政治局常務委員の宿舍訪問。

▶金主席、キューバ共産党代表団、ラオス党・国家代表団とそれぞれ会見。

▶朝鮮・ギニア政府代表団間会談。

▶南北統一サッカー競技開催(メーデースタジアム)15万人収容の会場超満員。

12日 ▶カンボジア国民政府・シアヌーク大統領一行、平壤着。

▶金主席、エチオピア労働者党、タイ軍事代表団、タイ民主党代表団、タイ民族党代表団、タイ社会行動党各代表団と会見。

▶平壤市とジョージタウン市間の友好都市設定に関する合意書調印(ガイアナ・ジョージタウン)。

▶野菜用温室の建設、平壤市、咸興市、清津市、端川市、恵山市、江界市、新義州市、開城市、榮光郡、会寧郡などで進む。

▶朝鮮・シュレオネ党・政府代表団間会談。

13日 ▶金裕淳国家体育委員長・南側鄭東星体育部長間の共同合意文発表——第41回世界卓球選手権大会、92年バルセロナ・オリンピック、第3回三池淵冬季アジア競技大会に北南統一チームで出場。北南体育会談早期開催予定。

▶南朝鮮10月民主抗争11周年記念報告会(平壤市)。

14日 ▶金主席、シアヌーク大統領と会見、昼食会。

▶『労働新聞』論評「分裂の国際的合法化策謀」——南朝鮮当局者の国連単独加盟策謀を糾弾。

16日 ▶第2回北南高位級会談南側代表団(姜総理)平壤着、延総理主催宴会。

▶『労働新聞』社説、社会主義建設での大高揚をよびかけ——「今回の慶祝行事を高い政治的熱意を持って成果的に保障した氣勢で社会主義建設をさらに力強く促進しなければならない」。

▶金主席、ベルー「変革90」運動代表団、エクアドル「ボルンタド」出版社社長一行らと会見。

17日 ▶第2回北南高位級会談1回目会談開催(平壤)——延総理基調発言、北南不可侵宣言採択、国連対策、「チームスピリット」軍事演習中止、訪北人士の釈放。

▶金主席、ジンバブエ・アフリカ民族同盟愛国戦線・政府代表団、ギニア政府代表団と会見。

18日 ▶金日成主席、姜総理ら南側代表団一行と会見。北側代表団同席。

▶第2回北南高位級会談2回目会談(非公開)——北スポークスマンによると、北側不可侵宣言草案に対し南側

は「和解・平和共同宣言」を提起。北側は受人用意があり、題目変更を提起したが、南側は不可侵自体「総理の権限外」として回避。

▶汎民族統一音楽会開幕(～23日)。

20日 ▶『労働新聞』論説「南側は不可侵問題に勇断を下せ」、同論説「朝鮮に対する(米の)侵略企図」。

21日 ▶『労働新聞』論評——文益煥牧師釈放は遅まきながら民族の団結や統一のために良いこと。

▶中国人民志願軍参戦40周年「朝中友好週間」開幕。

▶パリで「高麗民主連邦共和国創立方案」による統一支持世界大会(～22日)。

22日 ▶『労働新聞』社説「チュチュ祖国を輝かせよう」、同論説「強固な統一団結の継承は党の大きな誇り」。

▶元中国人民志願軍代表团、元中国人民志願軍英雄代表团、元中国人民志願軍烈士家族各代表团平壤着。23日 呉振宇人民武力部長と会見。

23日 ▶ヨルドッ三千里平野大豊作。

▶ソウルで南北統一サッカー競技。

▶汎民族統一音楽会閉幕(平壤)。「内外の同胞音楽芸術家に送るアビール」採択。

▶鴨緑江橋を「朝中友好橋」と命名の集い。

▶中国公安部代表团(高旭特別顧問平壤着)。

▶『労働新聞』論評「民族和解に逆行する挑発行為」——北側サッカーチームのソウル到着日(21日)にKBSテレビが北側を中傷冒瀆する映画を放映、『東亜日報』『中央日報』等各新聞も北側体制を中傷する記事。

24日 ▶中国党・政府代表团(李鉄映國務委員兼国家教育委员会主任)平壤着。

▶中国人民志願軍参戦40周年記念中央報告大会。

▶政府経済代表团(鄭松男対外経済事業部長)セネガル訪問に出発。

▶『労働新聞』論評で、高位級会談取材報道に平壤を訪問した南側記者たちの反北・反共宣伝を糾弾。

▶南北体育相協議——11月29日に第1回北南スポーツ会談を開催し、統一チーム構成を討議予定。

25日 ▶金主席、中国党・政府代表团、人民友好代表团、元人民志願軍代表团、元人民志願軍英雄代表团、元人民志願軍烈士家族代表团、公安部代表团、体育代表团はじめ各中国代表团団長と会見。

▶金主席、中国人民志願軍参戦40周年で宴会。

▶国連開発計画の技術協力開始40周年に際し、人類の発展に関する討論会(平壤・人民経済大学)。

26日 ▶金主席、中国駐在イタリア・ラジオ・テレビ放送会社支局長と会見。昼食会。

27日 ▶中国党・政府代表团が盛大な答礼宴、金主席、呉振宇、李鐘玉、延亨黙ら招かる。

▶朝・中合弁運営レストラン青春館開業。

28日 ▶『労働新聞』論評「統一問題の解決で堅持すべき姿勢」——「南側は北南関係を国家間の関係に変えようと策した。こうした立場は一つの朝鮮を否認し、民族の要求と利益を放棄するもの」。

29日 ▶列国議会同盟総会(ウルグァイ、10月15～20日)で第85回総会を91年に平壤で開催することが決定されたと報道。

▶『労働新聞』社説「全社会にチュチュの革命精神がさらに溢れるべき」——「チュチュの革命精神は、いかなる異色な思想も許さない純潔な革命精神。全活動家と勤労者は、わが党と革命隊伍内にチュチュ思想に反するいかなる思想も浸透できるような強くたたかわなければならない」。

▶『労働新聞』論評「単一の議席で国連に加盟すべきだ」、同論説「軍縮は朝鮮から」。

30日 ▶中央人民委政令——洪時学氏を副総理に、農業委員会委員長の白範寿を解任し、金元振を任命。

31日 ▶中央人民委員会、7月7日を「鉞夫節」に制定。

## 11月

1日 ▶『労働新聞』社説「現実の発展の要求に沿って出版報道物の役割を高めよう」——「出版報道活動の優先的課題は党と領袖の偉大さを広く宣伝すること」。

2日 ▶シアヌーク大統領、カンボジア劇映画製作に寄与した関係者のため交歓会。

▶中央人民委政令、60大学を改称——平壤師範大学→金哲柱師範大学、平城師範大学→明新大学、新義州第一師範大学→車光洙大学、会寧教員大学→金正淑教員大学、元山水産大学→東海大学など。

▶中国全国総工会代表团平壤着。

▶『労働新聞』論評で、南朝鮮の社会主義労働者同盟(社労盟)捜査に関する結果発表は「統一愛国勢力への全面弾圧の前奏曲」と糾弾。

▶朝鮮学生委員会が南全大協学友に書簡——「『二つの朝鮮』策謀を断固粉碎して富強繁栄する統一祖国の新しい歴史を開くために力強くたたかおう！米軍と核兵器を南朝鮮から撤収させ、ファッション独裁支配を清算するために自主化、民主化の旗をさらに高く掲げよう！民族の宿願である統一は目前に迫っている。……一つの国家、二つの制度、二つの政府に基づいた連邦制統一を実現するためにたたかい、またたかおう！」。

▶朝ソ間経済取引を新しい形に移す両国政府間協定調印(モスクワ、金達玄副総理サイン)。

3日 ▶朝日国交正常化外交部(外務省)局長級予備会談(北京、～4日)。朝鮮側朱局長、日本側谷野局長。

▶朝鮮労働党国際部代表团、朝鮮人民軍政治活動家代表团(李奉遠上將)中国訪問に出発。

▶朝鮮政府貿易代表团(宋希哲副部長)アルバニア訪問に出発。

▶『労働新聞』論評「平和と統一を阻む最大障害物」——「朝鮮半島で平和と統一を達成するための先決条件はアメリカの南朝鮮占領にピリオドを打つこと」。

4日▶朝鮮カトリック教徒の林秀卿・文奎絃即時釈放を促す祈禱会(平壤・長忠聖堂)。

5日▶第3次7カ年計画完遂者数——平壤第一遠距離輸送隊、陽徳林産事業所、平安南道孟山炭鉱などの工場・企業所が3年6カ月繰上げ完遂。現在、全国的に20余工場・企業所、約200余職場・作業班、約3000人の勤労者が計画を完遂。

6日▶この3カ月間に地方の市・郡で2万余世帯住宅を新築。

▶金主席、ロシア革命73周年でゴルバチョフ大統領・党書記長に祝電「われわれは朝ソ両国人民間の伝統的な友好関係が引き続き発展するものと確信します」。

▶中国外交部友好代表团(劉華秋副部長)平壤着。

▶職総中央委第20回総会(～7日)——現情勢の要求に沿った思想教育活動をさらに改善・強化する課題を討議。

8日▶『労働新聞』報道、金正日書記が朝鮮中央通信第五局第二細胞党員に回答書簡——同細胞員15人が書記に手紙「われわれは党中央を命を賭して擁護し、チュチェ思想の旗を先頭に立って掲げる旗手となります」、回答書簡「私は力をさらに発揮し、党員同志のみならずの期待にたがえることなく党と革命に限りなく忠実であることを確信するものです。1990年11月1日」。

▶南北赤十字第8回実務代表協議開催(板門店)——南側が北側歌劇「花を売る乙女」を受け入れられないと固執し、膠着状態に陥れた。

9日▶義挙入北した南朝鮮ボイラー会社勤務全季鳳が各地を参観——「以南人民も以北人民と共に偉大な金日成主席と親愛なる金正日書記の懐に抱かれ幸福に暮らせる日のために全力を傾け働く」と語る。

▶国連加盟問題北南高位級会談第3回代表協議開催(板門店)——北側「国連舞台南北協力案」「北南国連単一議席加盟共同申請書の基本内容(草案)」を提起。

▶礼成江一延白平野水路(基本水路80\*、枝路76\*)竣工式。安谷青年貯水池竣工式。

10日▶『労働新聞』、「南朝鮮支配層が云々する『制度統一』論は永久分裂論である」と批判。

▶朝鮮軍事代表团(金光鎮大将)中国訪問に出発。

12日▶『労働新聞』社説「階級教育を強化しよう」——「誰もが革命時代、闘争時代の要求に沿って革命的・戦

闘的に生活すべきであり、そのためには党員と勤労者を高度の階級意識で武装させる活動を強化せねばならない。階級原則をさらに堅持し、ブルジョア思想文化の浸透に革命的な政治思想攻勢で対峙すべきである」。

▶『労働新聞』論説「『実体認定論』は分裂固定論」。

13日▶日本社会党朝鮮対策委員会(嶋崎事務局長)平壤着。

▶中国エネルギー部代表团(張鳳祥エネルギー部電力企業連合理事長)平壤着。

▶『労働新聞』論説「国連は加盟問題で朝鮮統一に貢献すべき」——朝鮮の国連加盟問題は民族内部の問題。北と南が合意に到達した後に朝鮮の国連加盟問題が国連に上程されるべきである。

▶『労働新聞』社説「革命的スローガンをさらに高く」——「『党が決心すれば、われわれはする』という革命的スローガンは党の意図と政策を死活的なものとして受け入れ、水火を辞さず最後まで貫徹するという燃える志向をこめた絶対的で、無条件性の闘争スローガン」。

14日▶『労働新聞』論説「独創的なチュチェ哲学」——「人類思想発展の高い段階を示すチュチェ哲学」。

15日▶中国共産党江総書記、朝鮮労働党活動家休養団(黄長燁書記)と会見、「国の自主的平和統一をめざす朝鮮労働党の方針を積極的に支持する」と言明。

▶『労働新聞』論説「祖国統一への朝鮮人民の念願は誰も阻めない」——「90年代は7000万同胞が闘争のなかで祖国統一を迎える希望の年代、栄光の年代」。

▶渭原発電所建設竣工式、慶祝集会。朝中代表参加。

▶『韓民戦』中央委、南朝鮮人民に送るアピール発表——「盧泰愚打倒」「軍政一掃」のスローガンのもとに総決起し、「六共」独裁一掃闘争を大衆的に展開しよう。

16日▶ブルンジ政府代表团(ムボンバ外務・協力相)平壤着(～20日)。政府代表团間会談(～17日)。

▶外交部声明——核保障協定締結問題でアメリカと協議が必要。

▶『労働新聞』社説「党員だけができる高尚な行為」——「わが党員たちと勤労者は党の傑出した人民的指導の風格と偉大性を学び朝鮮中央通信細胞員たちの忠誠の模範に学ぶ運動を力強く繰り広げている」。

17日▶北京で朝日国交正常化交渉第2回外交部(外務省)局長級予備会談。

18日▶農勤盟中央委員会第15回総会、社会主義農業テーゼ貫徹課題、農業勤労者に対する思想教育事業の改善強化問題を討議。

▶三大革命赤旗獲得運動発端15周年記念中央報告会。

▶『労働新聞』社説、三大革命赤旗獲得運動の成果をさらに拡大発展させようと呼びかけ。

19日 ▶金日成主席、ブルンジ政府代表団と会見。

▶外交部スポークスマン声明——第22回「韓米定例安保協議会」を糾弾——「途方もない口実で任意の時刻に核戦争を挑発しようとする決心を固めた策動」。

20日 ▶咸鏡北道セピョル郡農園協同農場で年間決算配分、穀物3.2%、野菜1.6%、食肉6%計画超過達成。

21日 ▶劇映画「人生の春」を制作——党によって真の生活を送る日本出身の一女性と、その家族を描く。

▶金永南副総理・外交部長、キューバ訪問に出発(～12月6日)。

▶『労働新聞』論説「戦争防止と平和守護は一貫した政策」、「全民族的対話づくりが重要」。

23日 ▶軍事代表団(呉振宇)、イラン、タイ訪問に出発(～12月5日)。

▶北京で延亨黙・李鵬総理間会談。

▶平壤市で路面電車線路工事着工(光復街通り)——5万余人市内勤労者・軍人が決起集会。

24日 ▶中国楊尚根主席、延亨黙総理と会見。

▶延総理一行、北京第一工作機械工場、市内カラーテレビブラウン管有限公社を訪問し、列車で北京出発。

▶テヘランで呉振宇人民武力部長とイラン革命防衛隊モフセン・レザー総司令官が単国会談(～25日)。

▶『韓民戦』中央委声明——朝日の 国交正常化を妨害する盧泰愚一派を糾弾。

25日 ▶朝日友好促進親善協会スポークスマン談話——南朝鮮当局者は朝日関係改善に干渉するな。

▶『労働新聞』論説「スローガン文献は貴重な財宝」。

26日 ▶『労働新聞』社説「団結の 伝統を 継承発展させよう」。

▶中国の江沢民党総書記、延亨黙総理と会見——両国が普通の関係ではない、中国人民は中朝両国間の鮮血で結ばれた友好を大事にしていると強調。中国人民は朝鮮半島の安定に関心を持っているとのべ、南北総理級対話が成果を収めるよう希望した。

27日 ▶金日成主席、平安南道江東郡烽火協同農場を現地指導——「例年にない気候不順のもとでも穀物収穫を高めたことに満足」、綱領的教示。

▶朝鮮・中国経済協力協定調印(北京)。延亨黙、李鵬両総理出席、金達玄・呉学謙副総理サイン。

▶朝鮮とアンテ ィアグアパーブードが外交関係樹立、ニューヨークで共同コミュニケ。

29日 ▶イラン訪問中の朝鮮軍事代表団(呉振宇)が朝鮮大使館で宴会。

## 12月

1日 ▶『労働新聞』論評「反民族的、反統一の企みの

表れ」——日韓第15回定期閣僚会議を非難。

2日 ▶『労働新聞』論評——11月29日国連安保理事会決議は「湾岸地域で戦争が起こりうる危険信号」。

4日 ▶中央人民委員会政令で閣僚更迭——(1)電子工業委員会委員長から白世允を解任、金昌鎬(元国家科学技術委委員長)を任命。(2)通信部長から金昌浩を解任、金学燮(89年6月の6期14回党総会で中央委候補)を任命。

▶第2回全国青年発明・創意考案先駆者大会(～6日)。

5日 ▶金日成主席、ギニア政府農業代表団と会見。

▶朝鮮人民軍海軍代表団(金鎰喆上將)訪ソに出発。

▶共和国の貿易船団創設は1972年、その後18年間に船舶保有数は20倍。各貿易港の通過能力は10年間に4倍化。90年代に船団規模を2.5倍化する計画。

▶朝鮮における産業汚染監視・予防討論会(～8日)——環境保護部門の科学者・技術者と駐朝国連開発計画代表。

6日 ▶金日成主席、全国栄誉軍人芸術サークル総合公演出演者らと会見。呉振宇、李鐘玉、朴成哲、延亨黙、崔光ら同席。同総合公演を観覧。

7日 ▶金正日書記が示した革命的スローガン——多数を列挙、これまで三大革命グループ員17万余人。2万余人が労働党員に。数十人の共和国英雄・労働英雄はじめ5万余人が国家受勲。約6000単位が二重三大革命赤旗・三大革命赤旗獲得、数十万人が三大赤旗旗手に。

▶『労働新聞』論評「分裂主義者の訪問」——盧泰愚の訪ソを非難。

▶ソウル「90送年統一音楽会」へ平壤民族音楽団が出発(33人)。

▶惠州セメント工場・火力発電所組立工事と焼成炉建設完成、操業開始。

8日 ▶ソウル入りした平壤民族音楽団団長晩餐会で演説——同日『中央日報』記事が北革命伝統を冒瀆し体制を中傷したと指摘、編集局長の謝罪と訂正記事を要求。

▶訪朝中のタンザニア革命党アリ・モハメド副書記長が平壤で記者会見——「タンザニア人民は金日成主席と金正日書記を尊敬している。主席と書記が人類の前に築いた不滅の業績は永く伝えられるだろう」。

9日 ▶「90送年統一音楽会」で初の南北合同公演開催(ソウル・芸術の殿堂)。

10日 ▶石炭工業部集計によると、今年11カ月間に89年同期比110余万トンの石炭を増産。

▶南北体育会談北側代表団金衡鎮団長、電話通知文で20日に第2回会談開催を提議。

▶「90送年統一伝統音楽会」2回目合同公演(ソウル・国立劇場)。

11日 ▶『労働新聞』、金主席が11月29日にネパール記者



協会委員長の質問に答えた回答全文掲載——「今日アジアは新たな発展段階……アジア諸国間の団結と協力をさらに発展させなければなりません」。

▶南北高位級会談北側代表団ソウル着。晚餐会で延総理演説「われわれにとって緊急で死活的なものは軍事的対決を解決することであり戦争を防止すること」。

▶朝鮮労働党代表団(徐寛熙書記)タイ訪問に出発。

12日 ▶第3回北南高位級会談第1回会議開催。双方基調発言。北側「北南不可侵と和解協力に関する宣言(草案)」を提議。

▶朝鮮労働党代表団(崔泰福書記)フランス共産党大会出席のため出発。

▶『労働新聞』、第2回南北体育会談早期開催提議。

▶高位級会談取材の北側記者たちが東国大、外国語大を訪問。林秀卿の家を訪問。

▶『労働新聞』論説「米は朝鮮半島での緊張政策を捨てよ」。

13日 ▶平壤民族音楽団一行がソウル出発。

▶『労働新聞』ソウル取材班論評、11日のソウル各紙・放送が北の社会体制と制度を冒瀆し、北の平和統一方案を中傷したと糾弾。

▶第3回北南高位級会談2日目会議、閉幕——第4回会談を91年2月25～28日平壤開催で合意。

▶シェラレオネで朝鮮技術援助によるピンコロ水力発電所着工式。

14日 ▶朝鮮・ベトナム蚕業合併会社創設(ハイフォン)。

15日 ▶日朝国交正常化のための外交部(外務省)局長級第3回予備会議開催(北京、～17日)。すべての問題で意見一致、合意文書採択。

16日 ▶全国自動車運輸部門熱誠者会議(～16日)。

▶ベルリンで祖国統一汎民族連合(汎民連)海外本部を結成。

17日 ▶金主席、リビア経済代表団と会見。

▶パレスチナ革命開始26周年「パレスチナ人民との世界連帯デー」集会(平壤、千里馬文化会館)。

▶朝鮮国家科学技術委員会とソ連国家品質管理・規格委員会間1991～95年度規格計量部門協力の基本方向議定書と1991年度科学技術協力計画書調印(平壤)。

▶政府水産代表団(崔福延水産委員長)リビア訪問に出発。鉄道部代表団(黄三隣副部長)中国訪問に出発。

▶コンピュータ全国プログラム競技(平壤、～19日)開催。440件のプログラム提出。

18日 ▶陸運総局、海運総局、平壤市内各区域・黄海南道内の80余工場・企業所で年間計画達成。竜城日用品工場、雲山自動車事業所が3次7カ年計画を3年以上繰上げ完遂。

▶電力は89年同期より6%増産。水豊発電所、虚川江発電所、長津江発電所も年生産計画を終了。

▶朝鮮・リビア政府間共同委員会第7回会議議定書調印(平壤)。

▶『労働新聞』論説「新アジア建設は共同の課題」。

19日 ▶この2年足らずで恵山一満浦間、青丹一徳達間など280余\*。の新鉄道が開通、90年にテゴソ一鳳倉一汗嶺などと200余\*。区間が電化。

▶『労働新聞』論説「領袖、党、大衆の血縁的連携」。

22日 ▶朝日国交交渉本会談代表団長に田仁徹外交部副部長を任命。

▶礼成江5号発電所竣工式。

24日 ▶政府経済代表団(鄭松男対外経済事業部長)ロシア共和国訪問に出発。

▶金日成主席指導下で朝鮮労働党平安南道委員会総会拡大会議(～25日)。平安南道内の人民経済をいっそう発展させる問題を討議。

▶『韓民戦』中央委声明——盧泰愚の訪ソ糾弾、「韓民戦は各界愛国民衆と共に韓半島統一、平和偉業に背く韓ソ結託を必ずや粉碎し、自主、民主、統一の栄光にみちた勝利を早めるためさらに力強くたたかうであろう」。

25日 ▶『労働新聞』論評「本性を表した反統一、反平和訪問——盧泰愚訪ソ糾弾「盧のソ連訪問はアメリカの指揮棒に従ってソ連をバックに『吸収統一』の道を築こうとするとともに目的があった」。

▶『労働新聞』論評「植民地手先の出過ぎた行動——南独裁集団の朝日国交正常化会談干渉を糾弾」。

▶「創造と建設で飾られた1990年」——順川ビナロン2段階建設。沙里院カリ肥料建設が進み、800\*。水路工事完成、平壤5万世帯住宅建設の進展等。

▶『労働新聞』論評「統一の前途曇らす『国連加盟』企図」。

▶朝鮮仏教徒連盟創立45周年記念報告会——「共和国で行われている万民平等、万民福祉の社会主義社会は仏教徒が長い間願ってきた仏国浄土」金主席が示した祖国統一五大方針こそが高麗民主連邦共和国創立方法で1990年代に必ず統一を成就させる公明正大な方案」。

▶『民主朝鮮』紙論評「チームスピリット」を中止せよ」。

▶朝鮮・ロシア共和国間貿易経済協力協定調印(モスクワ)。

26日 ▶入北した元容寛氏が記者会見——「主席は全民族が高く戴くべき偉大な領袖。以南民衆が金日成主席と金正日書記の懐に抱かれて暮らす日を早めるため精一杯働く」。

27日 ▶平壤各紙社説。社会主義憲法発表18周年を記念。

## 参考資料 朝鮮民主主義人民共和国 1990年

### ㉑ 国家指導機関メンバー(1990年12月末現在)

主席 金日成

副主席 李鐘玉, 朴成哲

#### 国防委員会

委員長 金日成

第一副委員長 金正日

副委員長 呉振宇, 崔光

委員 全秉浩, 金喆万, 李河逸, 李乙雪, 朱道日, 金光鎮, 金鳳律

#### 中央人民委員会委員

金日成, 朴成哲, 李鐘玉, 韓成竜, 姜成山, 徐允錫, 趙世雄, 洪時学, 崔文善, 金学奉, 姜賢洙, 朴勝日, 李奉吉, 林亨九, 冉基淳, 金基善, 池昌益(書記長)

#### 政務院

総理 延亨黙

副総理 金永南, 崔永林, 洪成南, 金福信, 姜希源, 金允赫, 金達玄, 金渙, 金昌周, 張徹, 洪時学 (10月30日就任)

外交部長 金永南(副総理兼任)

社会安全部長 白鶴林

国家計画委員会委員長 崔永林(副総理兼任)

軽工業委員会委員長 金福信(副総理兼任)

化学工業部長 金渙(副総理兼任)

対外経済委員会委員長 金達玄(副総理兼任)

国家検閲委員会委員長 李勇武

交通委員会委員長 李吉松

電力工業委員会委員長 李知贊

農業委員会委員長 金元振(10月30日就任)

水産委員会委員長 崔福延

国家建設委員会委員長 金応祥

人民奉仕委員会委員長 孔鎮泰

国家科学技術委員会委員長 李子方

電子自動化工業委員会委員長 金昌鎬(12月4日就任)

金属工業部長 崔満頭

機械工業部長 桂亨淳

鉱業部長 金必渙

石炭工業部長 金利龍

資源開発部長 金世栄

船舶工業部長 李錫

建設部長 趙哲俊

建材工業部長 朱栄勲

林業部長 金在律

地方工業部長 金成求

原子力工業部長 崔学根

都市経営部長 李鉄奉

通信部長 金学燮(12月4日就任)

労働行政部長 李在潤

財政部長 尹基貞

教育委員会委員長 崔基龍

文化芸術部長 張徹(副総理兼任)

保健部長 李鐘律

鉄道部長 朴容錫

海運部長 呉成烈

貿易部長 金達玄(対外経済委員長兼任)

対外経済事業部長 鄭松男

商業部長 韓章根

科学院長 金敬峰

国家体育委員会委員長 金裕淳

中央銀行総裁 鄭成沢

中央統計局長 申京植

中央資材総理連合商事総社長 蔡圭彬

政務院事務局長 鄭文山

#### 最高人民会議常設会議

議長 楊亨燮

副議長 呂鸞九 白仁俊

事務長 金敬峰

委員 李季白, 鄭信赫, 鄭浚基, 元東求, 廉泰俊, 鄭斗煥, 崔龍海, 朴寿東, 金聖愛, 柳鎬俊, 鄭河徹

中央検察所所長 韓相奎

中央裁判所所長 方学世

### ㉒ 金日成主席の新年の辞(1990年1月1日)

親愛なる同志の皆さん!

同胞兄弟姉妹の皆さん!

私は希望に満ちた1991年を迎え、北半部の全人民と南の兄弟、そして在日同胞をはじめとする海外の全同胞に熱烈なお祝いと熱い挨拶を送ります。

私は、社会主義諸国人民と非同盟諸国人民をはじめとする世界のすべての進歩的人民と友人に新年の挨拶を送ります。

1990年は、わが人民が激変する歴史の流れのなかで社会主義の旗じるしを高くかかげ力強く前進した誇らしい勝利の1年でありました。

昨年、帝国主義者と反動の反社会主義策動により国際舞台では人々を憂慮させる複雑な事態が次々と起こり、それは国が分裂した困難な条件のもとで社会主義を建設しているわが人民の前に新たな障害と難関をつくり出しました。しかし、わが党は少しの動揺もなく主体的な革

命路線を確固と堅持して革命的攻勢で反革命攻勢に立ち向かい、人民大衆の力を信じ全勤労者を新たな大進軍運動へ力強く呼び起こしました。党の指導のもとに、わが人民は社会主義偉業の正当性と勝利にたいする固い信念を抱いていっそう奮起してたたかい、あらゆる障害と挑戦に勇敢に打ち勝って社会主義建設で輝かしい偉勲を轟かせました。

昨年、わが労働者階級と人民軍軍人の創造的かつ献身的なたたかいによって、社会主義自立的民族経済の威力をいっそう強化するための発電所建設と工場、企業所の改造拡張事業が成功裏に進められ、沙里院カリ肥料連合企業所をはじめ重要対象建設が力強く推進されました。近い将来に人民の住宅問題を完全に解決しようとする党の構想を実現するため、忠誠のたたかいに立ち上がった首都建設者は統一通り建設を力強く進め、昨年、3万世帯の近代的な住宅を新たに建設する誇らしい成果を達成しました。

農村水利化のための大自然改造事業に立ち上がったわが農業勤労者と人民軍軍人をはじめとする支援者は、短期間に800\*の水路を新たに建設して大同江と礼成江、鴨緑江と大寧江を1つの大灌漑網に連結し、西部地区穀倉地帯のすべての田畑に灌漑水が流れるという天地開びゃくを達成しました。800\*の水路が建設された結果、わが国は世界に誇れるほどの発展した灌漑の国となり、これはわが党が打ち出した社会主義農村テーゼの偉大な勝利であります。

党と革命に忠実なわがインテリは社会主義建設の主人公としての高い誇りと責任感をもって献身的にたたかい、科学と教育、文化芸術、保健をはじめ社会主義文化発展と経済建設に積極的に貢献しました。

今日の厳しい情勢のなかでわが党と人民が一つに固く団結し、重なる難関に打ち勝って社会主義建設で達成した輝かしい成果は、帝国主義者と反動たちに大きな打撃となり、世界の進歩的人民と友人には力強い鼓舞となりました。帝国主義者が「社会主義の危機」について騒いでいるときに、アメリカと直接対峙しているわが国で社会主義が揺るがず、引き続き勝利のうちに前進していることは世界の人民に驚嘆を呼び起こしており、その秘訣が何かということに多くの人々が深い関心を示しています。

わが国社会主義の不敗性と勝利の秘訣は、一言でいうと社会主義建設で主体をしっかりと打ち立てたことでもあります。

今日、わが党と人民大衆は運命をともにする一つの社会的生命体として結合し、革命の強力な主体を成しており、党と人民大衆の統一団結は社会主義建設の偉大

な推進力となっています。人民の自由と解放のための抗日革命の栄えある伝統を輝かしく継承発展させているわが党は、「人民のために奉仕する」というスローガンを高く掲げて人民大衆の利益と幸福のためだけにすべてを捧げてたかかっており、わが人民は「党が決心すればわれわれは実行する」というスローガンを信念として党の指導を忠誠をもって受けとめています。党の指導のもとにわが人民が自力で建設したわれわれの方式による社会主義は、社会のすべてが人民のために奉仕する真の人民の社会であり、自主、自立、自衛の強固な土台のうえで絶えず発展する最も活力ある社会であります。人民大衆のなかに深く根をおろした偉大な党、党の指導を忠誠をもって受けとめる偉大な人民、チュチェ思想が具現された人間中心の社会主義、まさにここにわが国社会主義の強固さの基礎があり、いかなる風波や試練にも打ち勝つ威力の源があります。

私は昨年、わが党の指導を忠誠をもって受けとめ党とともに革命の道を雄々しく歩み、1990年代の最初の年のたたかきを勝利のうちに終えたわれわれの英雄的労働者階級と農民、勤労インテリ、人民軍軍人をはじめ全人民に熱い感謝を送ります。

今年は、われわれの前には現情勢とわが革命発展の要求にそって社会主義建設を力強く促し、わが国社会主義の優位性をいっそう高く発揮させるべき重要な課題が提起されています。

今日、社会主義建設を立派に進めるのはわが人民が時代と歴史の前に担った栄えある任務であります。社会主義建設で勝利の万歳の声が引き続き高く響きわたるとき、帝国主義者の反共和国、反社会主義騒動は息をつけなくなり、チュチェ思想の牽引力はさらに強化されて社会主義の完全勝利と祖国統一の日は早まるでしょう。

われわれは今年、チュチェ思想の旗じるしを高く掲げて思想、技術、文化の三大革命を力強く繰り広げ、社会主義建設のすべての戦線で絶えず高揚を起さなければなりません。

今年、社会主義経済建設でわれわれに提起されている主たる課題は、人民経済の先行部門を確固と優先させ、すでに築かれた経済土台を効果的に利用して生産を高水準で正常化し、社会主義的要求にそって人民の物質文化生活をさらに高めることであります。

人民経済の先行部門を速やかに発展させることは自立的民族経済の威力を強化するための重要な要求であり、現時期生産を高水準で正常化するための基本的な環であります。今年、採掘工業と電力工業、鉄道運輸を確固と優先させ、金属工業発展に大きな力を注いでこの部門で新たな革新が起こるようにしなければなりません。

今年、われわれは建設を集中化する党の方針を貫徹して沙里院カリ肥料連合企業所建設と10月9日鋼鉄総合工場建設、発電所建設をはじめ、人民経済の主体性を強化して第3次7カ年計画の重要目標を実現するうえで鍵となる意義をもつ対象建設を積極的に促進しなければなりません。重要対象建設に参加した建設者と人民軍軍人は愛国的献身性と大衆の英雄主義を発揮して党の前に決意した建設目標を達えることなく実現し、党と人民の高い期待に応えなければなりません。

人民生活を絶えず高めることはわが党活動の最高原則であり、われわれが社会主義を建設する目的も人民に裕福で幸福な生活をもたらすことにあります。われわれは人民生活向上に引き続き大きな力を注ぎ、今日わが人民が享受している最も価値あり誇らしい政治生活と健全で豊かな文化生活に相応しく人民の物質生活水準を高めなければなりません。

人民生活を高めるうえで何よりも重要なことは農業と軽工業を速やかに発展させることであります。今年、農業部門ではチュチュ農法の要求どおり耕地の地力を決定的に高めて農業を科学技術的に営み、穀物生産目標を必ず実現して自然地理条件に合わせて農業経営を多角的に発展させなければなりません。われわれは党の軽工業革命方針を徹底的に貫徹し、布地をはじめとする各種人民消費財生産を画期的に増やさなければなりません。化学工業部門では化学工業をフル稼働させて農業生産に必要な化学肥料や農薬を適時に供給し、軽工業工場に化学繊維や各種原料を円満に供給しなければなりません。

今年、都市と農村に近代的な住宅をさらに多く建設し、とくに平壤市の統一通り建設を引き続き力強く進めなければなりません。

今年わが党が「大安の事業体系」を創造し、社会主義経済管理で新紀元を開いてから30周年になります。

大安の事業体系は経済管理で大衆路線を貫徹し、党の指導と行政経済的、技術的指導を有機的に結合させ、生産者大衆が主人公としての責任と役割を果たし、経済を科学的、合理的に管理運営できるようにする最も優れた経済管理体系であります。大安の事業体系を徹底的に貫徹すること、ここに集団的所有に基づいた社会主義経済の優位性と潜在力を遺憾無く発揮させるための基本的な鍵があります。われわれは大安の事業体系を徹底的に貫徹して社会主義経済に対する指導と管理で転換をもたらさなければなりません。

大安の事業体系における基本は党委員会の集団的指導を正しく実現することにあります。人民経済の各部門、各単位で党委員会の集団的指導を強化して党活動家と行政経済活動家、技術者と生産者が互いに緊密に協力し、

責任感と創意性を高め、提起される経済課題を円満に遂行するようにしなければなりません。经济管理でとくに行政経済活動家の役割を高め、制度と秩序を厳格に立てて計画規律、労働行政規律、生産規律を強化し、技術発展を優先させて経済的効果性と製品の質の向上を原則にして経済組織事業を組まなければなりません。

今年、われわれの前に提起された課題は膨大であります。全人民が党のまわりに固く団結してたたかえば容易に成功裏に遂行できます。

一心団結の力で難関と試練を克服して勝利の道を開拓してきたのは、われわれの誇らしい伝統であります。われわれは、党員と勤労者の間でチュチュの思想体系をさらにしっかりと立ち立て、党を中心とした全社会の政治思想的統一を盤石のように固めて「一人は全体のために、全体は一人のために」という原則で互いに助け導き、ともにたたかう同志的団結の気風を全社会に溢れさせなければなりません。

8月革命の指揮メンバーである指導活動家は高い革命性、党性、労働者階級性、人民性を発揮して事業を革命的に組織展開し、前進する隊伍の先頭で率先して模範を示し大衆を導かなければなりません。

わが人民は一世代に二つの帝国主義とたたかって勝利した英雄的人民であり、自力更生、刻苦奮闘の革命精神をもって社会主義を立派に建設してきた革命的人民であります。全党員と勤労者は英雄的に生き、たたかおうとの党の呼びかけを高くかかげて社会主義建設で新たな高揚を起こし、チュチュ朝鮮の栄誉を改めて轟かさなければなりません。

昨年は全民族が1990年代に祖国統一を実現すべく厳かな進軍の道に立ち上がり、全民族的なたたいかで祖国統一運動史に新たなページを開いた意義深い一年でありました。

昨年、北と南、海外同胞の高い期待と関心のなかで歴史的な八・一五汎民族大会が開かれ平壤とソウル、海外から政界、社会界人士とスポーツマン、芸術家をはじめ各界各層の同胞が互いに会って対話と統一祝祭を行なったことは、全同胞に喜びを与え、わが民族の高い統一意志を世界に誇示した大きな慶事でありました。対決と分裂の氷を解かして熱く噴出したこうした民族的団結の気運は、民族内部に不信と反目をつくってきた反共対決政策が破産し、民族大団結の崇高な理念が勝利していることを示しました。とくに、昨年に祖国統一汎民族連盟が結成されたのは、北と南、海外の統一愛国勢力が困難なたたかひをつうじて達成した貴重な成果であり、祖国統一の主体的力量を強化して統一運動を拡大発展させるうえで画期的意義をもつ出来事でありました。

新年を迎えた今日、全同胞は祖国統一の日をさらに確信をもって展望し、民族の団結と国の統一への道でより大きな前進を遂げる固い決意に溢れています。

われわれは国の分裂を半世紀以上引き延ばしてはならず、必ず数年内に祖国統一の歴史的偉業を勝ち取らなければなりません。

祖国統一を早めるうえで速やかに解決すべき問題は、朝鮮半島の平和を保障して祖国統一の平和的前提を整えることであります。

平和は人類の最も普遍的な理念であり、わが民族にとってこの上なく貴重なものであります。戦争の危険が常に重くのしかかっているわが国で再び戦争が勃発すれば、祖国の統一はおろか民族の存在までも危うくなるでしょう。平和は国の統一と民族の安寧のために北と南が優先的に解決すべき最も緊急な課題であります。

われわれは国の平和問題に常に優先的意義を付与し、その解決のために誠意ある努力を尽くしてきました。

われわれは朝鮮半島の平和を保障して平和統一の道を切り開こうという真摯な念願から、すでに1988年に南北間に不可侵宣言を採択し朝米間に平和協定を締結して、北と南の武力を大幅に減らし南朝鮮から米軍と核兵器を段階的に撤収することを予見した包括的な平和方案を打ち出し、昨年には南北高位級会談を開き、不可侵問題をはじめとする軍事的対決状態を実際に解消するための重要な提案を打ち出しました。

しかし、アメリカと南朝鮮当局はわれわれのこうした誠意ある努力に何ら肯定的な反応も示さず平和問題、軍事問題の解決に顔をそむけており、むしろ軍備を大々的に増強する道へ進んでいます。現在までの南北高位級会談の過程が示しているように、南朝鮮当局は口先では「平和」とか「冷戦の終息」とかいつていますが、実際には平和保障のための初歩的な措置も講じようとせず、いわゆる「交流優先論」にだけ固執しています。

われわれは人道的往来や交流問題を解決することも必要であると認めますが、より緊急な平和問題、軍事問題の解決を後回しすることについては妥協することはできません。南北間の故郷訪問や経済交流を実現しようとしても、まず懐中にかくした刃物から取り除くべきであり、北侵と「南侵」に対する危惧心から除かねばなりません。戦争が現実的危険となっているわが国の実情で軍事問題の解決を回避して交流だけに固執するのは事実上、平和も望まず正常な往来や交流自体もしないということにほかなりません。最近、南北高位級会談で不可侵宣言の採択問題と関連して南朝鮮当局者が取った立場は、かれらに平和問題を解決する意思が全くないことを明白に示しています。

不可侵宣言の採択は、南北間の不信を和らげて対決状態を解消し、平和と平和統一の新たな局面を切り開く出発点となります。

不可侵宣言は南朝鮮当局者自身も以前から主張してきた問題でありますから、今になってそれに反対するいかなる理由や口実もありえません。われわれは、南朝鮮当局が「信頼醸成優先」という新たな前提条件を持ち出して不可侵宣言の採択に強く反対していることをとうてい理解できません。南朝鮮当局者たちのいう「信頼醸成優先」なるものは、不可侵宣言の採択を回避するための口実にすぎません。不可侵宣言は決して信頼醸成後の問題ではなく、それ自体が信頼醸成のための出発点、最も重要な保証となります。

南朝鮮当局が不可侵宣言を採択する前から、それは紙切れにすぎず、われわれを信じることはできないというのであれば、事実上かれらがわれわれと合意できるものなど何もなく、もともと会談をすること自体何ら意味をもたないでしょう。南朝鮮当局者たちが不可侵宣言の採択を拒否するのは、不句侵を唱えてきたかれらの言葉が偽りであり、「南侵の脅威」というものたんなる虚構にすぎないことを自らあらわにするだけです。

南朝鮮当局は軍事的対決状態の解消問題に背を向けた後、後回しにしようとするのではなく、不可侵宣言の採択にためらいなく応じるべきであり、「チーム・スピリット」の合同軍事演習も中止すべきであります。

朝鮮半島の平和問題に直接責任のあるアメリカも、われわれの真摯な平和努力と朝鮮人民のひとしい祖国統一の熱望を直視して、力の立場にたった危険な戦争政策を放棄し、一日も早くわれわれと平和協定を締結し、南朝鮮から自国の軍隊と核兵器を撤収しなければなりません。

南北間の軍事的対決状態が解消され、南朝鮮から米軍と核兵器が撤収すれば、わが国では強固な平和が保障され、祖国統一の平和的実現に決定的に有利な局面が開かれるでしょう。

今日祖国統一を早めるうえで提起される重要な問題は祖国統一の方途を確定することです。

祖国統一の方途が確定されなくては、いくら統一について語ったところで、実践的には北と南が共同の目的に向けて歩調をとるにすることができず、統一のための対話の糸口すらもほぐすことができません。祖国統一が遠い将来の問題ではなく現実的な課題となっている今日、北と南は一日も早く祖国統一の方途について合意し、その実現のために努力することにより、祖国統一を渴望する全同胞に希望を抱かせなければなりません。

北と南に互いに異なる二つの体制が存在しているわが国の実情で祖国統一—はどちらかがどちらかを併呑したり、

併呑されたりしない原則にもとづいて一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづく連邦方式で実現されなければなりません。

一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづいた連邦制方式の統一方案は、北と南に存在する互いに異なる体制と政府をそのまま残し、その上に一つの統一的な民族国家をうちたてる方法で統一を実現しようというものであります。われわれの連邦制統一方案は、一つの民族国家内に互いに異なる二つの体制と二つの政府が共存しようということから出発しています。

いま、一部の人は「異質化」している北と南を統一するためには「同質性」を回復しなければならぬと主張していますが、北と南は単一民族としても今も昔も民族的共通性に変化はなく、民族的には依然として同質的であります。南北間に互いに異なるものがあるとすれば、この40年間存在してきた二つの体制と関連する異質性がありますが、それは数千年間にわたって形成され強化された民族的同質性に比べればたいした問題になりません。二つの体制の相違は、決してわが民族が互いに分かれて暮らさねばならぬ条件とはなりえず、北と南が統一するうえで克服できぬ障害となりえません。歴史的に綿々と受け継がれてきた民族的共通性を基礎とするならば、二つの体制はいくらでも一つの民族、一つの統一国家内で共存することができます。こうした可能性を見ずに「同質性」の回復という口実のもとに体制が単一化されるまでは二つの国家に分れているほかないとして一つの国家、一つの体制による「体制統一論」を主張するのは、国の分裂を果てしなく持続させようということであり、結局統一をしないことであります。

北と南の互いに異なる体制を一つの体制にする問題は今後ゆっくりと穏やかに解決するよう次の世代に委ねることもできますが、思想と体制の相違を超越して一つの民族として一つの統一国家をうちたてる問題はもはやこれ以上遅らせてはなりません。

北と南に互いに異なる二つの体制、二つの政府が依然として存在しており、どちらの一方も自らのものを譲歩しようとならない状況のもとで一つの体制による統一は非現実的なものであり、いつ実現されるのか予測すらもできないものであります。さらに二つの体制を単一化しようとするのは、その実現方法がどうであれ相手側を併呑することを前提にする以上、どちらの側にも受け入れられないものがあり、受け入れられないものを強要しようとなれば、必ずや不信と対決を激化させ、ひいては衝突ととりかえしのつかない民族的災難さえもたらすことになるでしょう。

最近、他国の吸収統合方式にまどわされた南朝鮮当局

者たちは「北方政策」をかかげて請託外交を繰り返しながら、他人の力を借りてわが国でもそうした方式を実現しようとの愚かな夢を追っています。南朝鮮当局者たちが同族との会談には誠意を見せず、自分のものを相手側に強要するために外国の干渉と介入を懇願しているのは、かれらの軍事主義的本性と分裂主義的立場の表われであり、すでに破産した「勝共統一」策謀の再現であります。

わが国において「勝共統一」とはいつになっても実現することはできない妄想であります。

戦争の方法であれ平和的方法であれ、相手側を併呑する方法でわが国の統一を実現することはできないということはすでに歴史によって実証されています。南朝鮮当局者たちは、わが党と共和国政府の自主的立場は確固不動であり、チュチェ思想を具現して建設したわれわれの社会主義は必勝不敗であることをはっきりと知るべきです。

一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづいた連邦制形式で統一することは、わが国の現実に合致した祖国統一方途の大原則であります。

国の分裂を終わらせ北と南が同じ民族として互いに和解し団結して祖国統一を平和的に最も早く実現しようの道は専らこの大原則を具現することにあります。

われわれは一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづいた連邦制統一方途としてすでに高麗民主連邦共和国創立方案を示しました。

この方案は共和国北半部人民はもとより、南朝鮮と海外の広範な同胞から積極的な支持と賛同を受けています。

われわれは、高麗民主連邦共和国創立方案が民族的合意の基礎となりうる公明正大な民族共同の統一方案になると信じています。しかし、われわれは高麗民主連邦共和国創立方案にたいする民族的合意をより容易に実現するために、暫定的には連邦共和国の地域自治政府により多くの権限を付与し、長期的には中央政府の機能をさらに高める方向で連邦制統一を暫次的に完成する問題についても協議する用意があります。

われわれは、国連に加盟する問題も連邦統一が実現した後に単一の国号をもって加盟するのが最も良いと認めています。単一の議席で加盟する条件であれば、その前にでも北と南が国連に加盟することに反対しないでしょう。

高麗民主連邦共和国を創立する方法で祖国を統一すれば、北と南は互いに自らの利益を侵害されることなく祖国統一に対する民族的宿望を実現することができ、統一民族の英知に富んだ誇らしい姿を世界に示すことができます。

南朝鮮当局が真の国の統一に関心を持っているならば、

実現不可能な「勝共統一」を夢見たり「赤化統一」の幽霊で人民を愚弄するのではなく、「勝共」も「赤化」も、北侵も「南侵」もすべて許さないわれわれの連邦統一方案を受けるべきであります。

われわれは、祖国統一前途に対する全民族的合意を達成するために早い時期に北と南の当局と政党、団体の代表が一堂に会して祖国統一の前途を確定する民族統一政治協商会議を開くよう提案します。

祖国統一を早めるためには、全民族の大団結を実現しなければなりません。

祖国統一は、誰も代わってなすことのできないわが民族の自主的偉業であり、当局や特定の階層の力だけでは成就することのできない全民族的偉業であります。「二つの朝鮮」に反対し、心から祖国統一を願う北と南、海外のすべての政党、団体や各界各層人民は、民族の切迫した要求と利益を最優先させて互いに志と力を合わせるべきであり、民族大団結を実現すべきであります。民族大団結のためには与党と野党、在野を問わず、多数と少数を差別してはならず、政見の相違と過去の過ちも問わず、相手国に対する疑念や偏見も捨てるべきであります。国の統一を願う各党、各派の政治勢力と各界各層人民は祖国統一の共同戦線で主張と行動を一致させ互いに連帯、連合しなければならず、平和と統一のための民族的な大衆運動を力強く繰り広げるべきであります。

民族大団結を実現するうえで今日とくに重要な意義を持つのは、北と南の政治家が互いに接触し、対話し、信頼を厚くすることです。当局者間にも対話が行なわれ、各界各層の人民も互いに会って対話をしようとしている今日、民族の運命と国の前途に重大な責任をもっている政治家が互いに垣をめぐらして座っているのは恥ずかしいことでもあります。われわれは双務的であれ、多務的であれ対話の形式にとらわれることなく南朝鮮の与党人士とも会い、野党や在野人士とも会うであろうし、誰にでも統一の扉を開け放っています。

当局間の会談が決して南北対話の唯一の窓口とはなりません。南朝鮮当局は南北高位級会談も進展させようとせず、民間人同士の対話さえも阻むような狭隘で独善的な態度を捨て、北を敵視する「法」を撤廃すべきであり、北を訪問したり、海外でわれわれと会って統一問題を論議したからといって逮捕投獄した各界人士を速やかに釈放し、すべての南朝鮮人民に北と自由に接触しうる均等な権利を保障すべきであります。

統一は愛国であり、分裂は売国であります。国と民族を愛する北と南、海外のすべての同胞はあらゆる分裂主義的策謀を粉碎して祖国統一の神聖な闘争に総決起し、今年を緩和と平和の年、祖国統一の新局面を開く歴史的

な年にすべきであります。

今日、国際情勢の変化の過程はわが党が一貫して堅持している反帝自主的対外政策の正しさを実証しています。

帝国主義者は冷戦の終結と平和時代の到来について公言していますが、国際情勢は依然として緊張して複雑であり、社会主義と帝国主義、進歩と反動間の鋭い対立と闘争が続けられています。帝国主義者は全世界的な規模でその支配圏を拡大する野望をさらに露骨に追求しており、これによって人民の自主偉業は重大な挑戦にさらされています。

帝国主義者が執着している「平和移行」戦略は本質において、社会主義諸国を内部から瓦解させ資本主義の道に逆戻りさせて政治的、経済的に自分達の支配圏内に入れることに目的があります。帝国主義者は自主的な発展途上諸国にたいしても「援助」や「協力」を条件にし、その支配を実現するのに有利に政治体制と経済体制を変えるよう強要しています。

国際関係で力の均衡が破れたのを契機にして帝国主義者はさらに傲慢無礼に振舞いながら主権国家に対する強盗的な武力侵攻も公然と強行しており、侵略に反対するとの口実のもとに新たなより大々的な侵略の道に進み破局的な戦争の危険を作り出しています。帝国主義の侵略的、略奪的本質は少しも変わっておらず、今日平和を脅かし自主、独立、社会主義をめざす人民のたたかいに難関と混乱をつくり出している張本人が他ならぬ帝国主義であることを現実には示しています。

世界の進歩的の人民は帝国主義者の甘言にだまされず欺まんな「援助」に期待をかけるべきではなく、反帝自主の旗じるしをさらに高くかかげて進むべきであります。

共和国政府は自主、平和、親善の対外政策を引き続き確固と堅持するであろうし、社会主義諸国と非同盟諸国をはじめ世界各国の人民との友好と協力関係を発展させるために全力を尽くすでしょう。

共和国政府は支配と従属の古い国際秩序を一掃し、自主性にもとづいた新しい国際秩序をうちたて、集団的自力更生の原則にもとづいて政治、経済、文化の各分野にわたり南北協力を発展させるために積極的に努力するでしょう。

今日、アジアは新たな発展段階に入っています。勤勉で才能豊かなアジア人民が自主性と平等、互恵の原則にもとづいて互いに団結し緊密に協力すれば、アジアの安全と共同の繁栄を遂げることができるし、世界の平和偉業に貢献できます。共和国政府は自主的かつ平和で繁栄する新しいアジアを建設するためにアジア各国人民との友好協力関係を積極的に発展させることでしょう。

歴史の前進過程で一時的な挫折と紆余曲折がありえま

すが、人類が自主の道、社会主義の道にそって前進するのは曲げるのできない法則であります。前進途上に横たわる難関に屈服して原則を放棄し歴史の軌道からはずれて他の道に進む人々は失敗と破壊を免れないし、真理と原則を固守し歴史の流れにそって進む人民は必ず勝利するでしょう。これは新しいものと古いもの、進歩と反動間の複雑な闘争と、混乱した情勢のなかで21世紀に移行しつつある現代が人類に与えている教訓であります。

朝鮮労働党の正確な指導のもとに信念と楽観に溢れ、社会主義の道にそって進むわが人民の前途には勝利と栄光のみがあるでしょう。

みなこぞってチュチェ思想の革命的旗じるしを高くかかげ、わが党と共和国政府のまわりに固く団結して社会主義のより高い峰を占領し、祖国の自主的平和統一を早めるために力強くたたかきましょう。

### ㊦ 朝鮮労働党中央委員会第6期第17総会に関する報道(『労働新聞』1990年1月10日号)

朝鮮労働党中央委員会第6期第17総会が1月5日から9日まで開催された。

朝鮮労働党中央委員会総書記である、わが国とわが人民の偉大な領袖・金日成主席が総会の司会を行なった。

総会には党中央委員会委員および同候補委員、党中央検閲委員会委員たちが参加した。

総会には中央と地方の党および行政経済機関の幹部、工場、企業所支配人、党書記たちが傍聴者として参加した。

総会には議題として「人民経済の全部門、全単位において増産・節約闘争をより力強く繰り広げることについて」が上程された。

総会は、金日成主席が行なった歴史的な今年の新年の辞を高くかかげ、全党と全人民が必勝の信念と革命的楽観をもって、希望にみちた1990年代の雄大な闘争目標をめざす新しい進軍を開始した激動的環境のなかで行なわれた。

総会の全過程は、生産と建設においてふたたび新たな一大高揚を起こし、社会主義建設のより高い頂きに勝利の旗を打ちたてようとの高い革命的熱意で一貫し、党と領袖を中心に固く団結して、チュチェの革命偉業の完成をめざして最後までたたかい貫こうとのわが党の人民のゆるぎない意志を明確に示した。

朝鮮労働党中央委員会政治局員である延享黙総理が報告を行ない、多くの同志が討論に参加した。朝鮮労働党中央委員会総書記であるわが党とわが人民の偉大な領袖・金日成主席が結論をまとめた。

総会は、わが党の指導のもと1980年代の社会主義経済

建設と大建設の闘争において成し遂げた偉大な勝利と輝かしい成果について総括し、90年代に新しい革命の大高揚を起こすうえで提起される重要課題について討議を行なった。

総会は、1980年代がわが国の社会主義建設の歴史において最も壮大な変化が起きた創造と飛躍の年代であり、チュチェ思想の旗のもと社会主義を成功裏に建設していくわが党の不敗の威力と指導力がすべての分野において力強く示された栄光の年代であったと誇らしく指摘した。

総会は、次のように指摘した。

わが党が指示した全党と全社会のチュチェ思想化のローガンを貫徹する闘争を通して、わが革命の主体はいっそう強化され、革命隊伍の不敗の政治・思想的団結がより強化された。

1980年代に全党員と勤労者は、高い革命性と闘争力を発揮してあらゆる難関を排して、力強く闘争し、社会主義経済建設の雄大な綱領を実現するうえで大きな前進を成し遂げた。

党の指導のもと、前例のない膨大な規模の工業建設が成功裏におし進められ、わが国工業の生産・技術的土台とその威力が大きく強化された。

大規模な水力および火力発電所、非鉄金属鉱山と新しい製錬所の建設が進み、現代的な金属工場と鉄鉱石生産基地を建設・拡張し、機械工業と電子、自動車工業を発展させるための膨大な規模の建設が成功裏に進み、人民経済の主体化、現代化、科学化が力強く進められ、わが国経済の自立性と主体性がより強化された。

とくに、世界屈指の西海閘門と、大化学工業基地である順川ビナロン連合企業所第一段階建設の成功裏の完成と、沙里院カリ肥料連合企業所建設の成功裏の推進、革命の首都・平壤市をはじめとする全国のいたる所で繰り広げられた大記念碑的創造物の建設は、わが人民の革命的気質と英知を力強く示した。

従来ならば数十年を費やしたであろう膨大な大建設課題をわずか数年間で遂行するとともに、第13回世界青年学生祭典を成功裏に開催したことは、誇らしい成果であり、労働党時代においてのみ創造できた偉大な勝利である。

1980年代の大建設闘争において、わが人民が成し遂げた勝利は、チュチェ思想の旗のもと絶え間なく強化されたわが革命の政治、経済的威力の誇らしい誇示となる。

総会は、1980年代の大建設の成果はチュチェ思想の理念に基づいて打ち立てられ、チュチェ思想の要求どおりに発展しているわが国社会主義制度の不敗の威力と優位性に対する明確な誇示になると強調し、つぎのように指摘した。



今日、わが国に深く根をおろした社会主義は、指導思想、指導理論、指導方法において独特なわれわれ式の世界社会主義であり、わが人民の志向と要求に合致し、これらの絶大的な支持を受けている最も強固で生命力ある社会主義である。

われわれの現実には、わが国の社会主義こそ人民大衆の無限の創造力を最大限に発揚させて経済建設において絶え間ない高揚を起こしうる真の世界社会主義であることを示している。

総会は、1980年代の世界社会主義建設において偉大な勝利を成し遂げることができたのは、思想、技術、文化の三大革命を力強く繰り広げてきた結果であると誇らしく指摘した。

総会は次のように指摘した。

思想、技術、文化の三大革命路線は、わが党の世界社会主義建設路線の核心をなす戦略的な路線であり、世界社会主義をいかなる偏向や曲折もなく成功裏に建設していく最も正しい路線である。

わが党と人民は、いかなる動揺もなく三大革命路線が指し示す道にそってそれを力強く前進させることにより、帝国主義的思想・文化的浸透と挑戦を成功裏に粉碎し、革命と建設のすべての分野で絶え間ない革新と高揚を成し遂げることができる。

総会は、1980年代にわれわれが成し遂げたすべての勝利と誇らしい成果は党の指導者を中心に一心団結したわが人民の威力によって成し遂げられたことを誇らしく指摘し、次のように強調した。

党が人民を信頼し、人民が党を信頼して従い、党と人民大衆が渾然一体となって、主体的な革命路線を徹底的に貫徹するとき、世界社会主義建設のいかなる要塞をも成功裏に占領できるということが、1980年代の大進軍運動の主たる総括である。

総会は、過去の革命と建設において成し遂げられた誇らしい成果と貴重な経験に基づいて、1990年代の世界社会主義建設においてより大きな勝利を成し遂げようとのわが党の確固たる決心を強調し、経済建設において決定的な前進をもたらすであろう重要な闘争課題について指摘した。

総会は次のように指摘した。

現時期、世界社会主義経済建設において提起される重要な問題は、新しい対象物の建設を積極的に繰り広げると同時に、既存の経済の土台を強固にして、それが実をあげるようにすることである。

自力更生の革命精神を高度に発揮して築き上げた自立的民族経済の土台は非常に偉大な力であり、その生産の潜在力は比類なく大きい。1980年代の大建設戦闘におい

て巨大な生産の潜在力が築かれたことにより、われわれの前にはさらに高い展望目標を成果的に達成して、世界社会主義の完全な勝利のための闘争に決定的な前進をもたらす輝かしい展望が切り開かれた。

総会は、既存の経済の土台が実を上げるようにする上で重要なことは、全党と全人民が自力更生、刻苦奮闘の革命精神を持ち、人民経済のすべての部門において増産・節約の闘争を力強く繰り広げることであると強調し、次のように指摘した。

「増産・節約し、既存の経済の土台の実を上げるようにしよう」。まさにこれが、今日のわが党の要求であり、新しい総進軍においてわれわれが高く掲げるべき戦闘的なスローガンである。

最大限に増産・節約しようとのわが党の呼びかけは、世界社会主義建設の合法則性と、わが国の経済発展の現実的要求を最も正しく反映しており、世界社会主義をより速く、より良く建設しようというわが人民の高い革命的熱意と志向を反映している。

党のこの戦闘的なスローガンは、世界社会主義の偉業をわれわれの方式に基づいて最後まで前進させようとの確固不動の決心と意志の現われである。

自力更生、刻苦奮闘の精神を持ち最大限に増産・節約すること、ここに自立経済の巨大な生産の潜在力を正しく動員利用して、人民生活を画期的に向上させ、経済分野においてわが国世界社会主義制度の比べようのない優越性を全面的に発揚することのできる確固たる保障がある。

増産・節約闘争を強化することは、世界社会主義経済管理の基本原則の一つである。

わが党は、すべてが破壊され廃墟と化した戦後復旧建設の時期に、「最大限の増産・節約」という戦闘的なスローガンを提示し、人民経済のすべての部門において増産・節約の闘争を強化することにより、世界社会主義建設で千里馬(チョンリマ)の大高揚を起こすことができた。

総会は、わが国の世界社会主義建設史上で最も輝かしい章を飾った千里馬大高揚の時期に発揮した革命的熱情と戦闘的気迫で、全党、全国、全人民が増産・節約のスローガンを高く掲げ再び力強い闘争を繰り広げ、世界社会主義建設において新たな高揚を呼び起こすことについて指摘した。

総会は、わが国の世界社会主義建設の現実的要求に合わせ人民経済のすべての部門、すべての単位で増産と節約の闘争をいっそう力強く繰り広げることについての課題と方途を提起した。

総会は今日、増産・節約闘争において提起される重要な課題は、人民経済のあらゆる部門で生産を高水準で正常化することにあるとし、次のように指摘した。

生産を正常化することは、経済活動においてわが党が一貫して堅持している方針である。

生産を高水準で正常化することは、計画的に発展する社会主義経済の合法的要求であり、すでに築かれた生産能力を最大限に利用し、生産を限りなく増大させるための重要な方途である。

生産を正常化してこそ、わが国に築かれた社会主義経済制度の威力を高度に発揮し、社会主義経済建設において不断の高揚を起こすことができる。

総会は、人民経済のあらゆる部門で生産を高水準で正常化し、当面、石炭、電力、圧延鋼材、セメントの生産と、鉄道輸送で到達せねばならない目標、そして人民の食衣住問題をさらに円満に解決するために穀物と生地の生産、住居建設において要求される目標を提起した。

総会は、人民経済のあらゆる部門において生産を高水準で正常化するためにはまず採取工業と運輸業に力を傾注しなければならないと述べ、つぎのように指摘した。

採取工業と鉄道輸送は、生産と建設において常に優先させなければならない人民経済の重要な部門である。現時期、生産を正常化するための基本は、採取工業と鉄道運輸をすべての部門で正常化することである。

総会は、採取工業と鉄道運輸の部門に必要な設備と資材を優先的に生産供給し、人民経済の全部門、全単位で炭鉱と鉱山、鉄道を労力的に、物質的に援助し、全人民的運動として支援事業を力強く繰り広げなければならないと強調した。

総会は、生産を正常化して既存の生産能力を最大限に利用するために、工場、企業所と生産設備に対する補修整備と技術改築の事業に力を入れることについて指摘した。

総会は、基幹工業部門をはじめとするすべての工業部門において増産・節約の闘争を力強く繰り広げ、チュチェ工業の生産の潜在力を高く発揚させることについての課題を提起した。

総会は次のように指摘した。

今日、わが国の基幹工業の潜在力は無尽無蔵であり、人民経済において占める比重は非常に大きい。

わが国の経済で最も大きな比重を占める基幹産業部門において増産・節約の闘争を力強く繰り広げることは、社会主義経済建設において新たな高揚を起こすためにまず最初に提起される重要な課題である。

総会は、燃料、動力と原料、資材を増産して節約することについて強調しながら、人民経済の基本動力である電力を増産・節約することに大きな力を注ぐことについて指摘した。

総会は既存の発電能力を最大限に効果的に利用し、新

技術を積極的に導入して、電力生産を増大させながら、あらたな発電所の建設を急がねばならないと指摘した。

総会は、電力を生産すると同時に電気を節約することにも関心を向けるべきだと強調し、人民経済の全部門、全単位で電気節約闘争を強化して電力消費基準を不断に下げ、交差生産を正しく組織し、少ない電力でさらに多く生産しなければならないと指摘した。

総会は、工業の食糧である石炭を増産して節約するための闘争を力強く繰り広げるについて指摘した。

総会は、すべての炭坑の生産系統をさらに現代化し、先進的作業方法を幅広く受け入れて、石炭生産を伸ばし、有望な地区に新しい炭坑を開発して石炭生産基地をいっそうしっかりと築かねばならないと強調した。

総会は、人民経済のすべての部門において石炭節約闘争を強化しなければならないと強調しながら、熱生産設備を現代的に改造し、新技術を取り入れて燃焼効率を高め、科学技術部門においては熱生産と利用において提起される科学技術的問題を円満に解決していかねばならないと指摘した。

総会は、全部門において鉄鋼材と石油、木材を極力節約し、最大限に効果的に利用することについて指摘した。

総会は、軽工業と化学工業部門において既存の生産能力を余すところなく利用するための闘争を力強く繰り広げ、党の方針どおりに紡織設備を現代化し、履物を樹脂工業化して原材料と労力を節約しながら、さらに多くの生地と履物を生産しなければならないと指摘した。

総会は、軽工業部門において生産を正常化してさらに増大させるために、化学工業部門で化学繊維と合成樹脂をはじめ化学原料を円満に生産保障しなければならないと指摘した。

総会は、地方工業部門において既存の生産能力を最大限に利用しながら、地方原料基地を一層しっかりと整え、地方原料による生産額の比重をいっそう高めなければならないと指摘した。

総会は、鉄道運輸部門と基本建設部門において予備を最大限に動員して緊張した輸送問題を解決し、投資の効率性を高めることについての課題を提起した。

総会は、次のように指摘している。

鉄道は、人民経済の先行管であり、国家の動脈である。鉄道輸送の潜在力を最大限に動員利用し、より多くの貨物を輸送することは、生産と輸送の間の均衡をいっそう円滑に保障し、社会主義経済の建設を全般的に促進するうえできわめて切実な問題である。

総会は、生産即輸送であり、輸送即生産であると述べ、鉄道運輸部門において輸送の予備を最大限に動員利用し、数年内に鉄道貨物の輸送量を2倍に増やすことについて

指摘した。

総会は、わが党が提起した「五・一八無事故定時牽引超過運動」を強力に展開するのは、鉄道運輸部門の活動家と勤労者たちの革命的熱意と創造的積極性に依拠して、輸送の予備を最大限に動員利用するためのもっとも積極的な方途であると指摘した。

総会は、鉄道輸送部門において進んだ作業方法を積極的に導入し貨車回帰日数を短縮して鉄道の重量化を積極的に実現し、三大輸送方針を徹底して貫徹してさらに多くの貨物を社会主義の建設場に適時に輸送することについて指摘した。

総会は、増産と節約の闘争を展開するうえで大きな意義があるのは、基本建設部門で浪費をなくし投資の効率性を高めることであると述べ、わが党が提示した建設の集中化方針を徹底して貫徹し、すでに着手した重要対象建設と住宅建設に力を注ぐことについて指摘した。

総会は、建設を工業化、現代化はることに大きな力を注ぎ、建築物の設計と施行において合理的な構造形式と建材を導入して、労働力と資材を節約しながらも建設速度をいっそう高めることについて指摘した。

総会は、増産と節約の闘争を強化するうえで、科学と技術がはたす役割の重要性を強調し、つぎのように指摘している。

現代は、科学と技術の時代であり、今日経済発展において科学と技術はこれまでになく高まっている。経済の規模が比較にならぬほど拡大し、その物質的土台が強化された今日、わが国における増産節約の最大の予備の一つは科学技術の発展にある。

わが国には、科学技術を急速に発展させることのできる十分な条件と、可能性が存在する。科学技術を発展させるための基礎が築かれており、チュチェ思想と現代科学技術をしっかりと身につけた135万人のインテリの大群を持っている。

この貴重な財産をうまく動かせば、できないことはないし、莫大な増産節約の予備を探し出して、社会主義建設でさらに大きな高揚を起こすことができる。

総会は、科学研究機関とあらゆる部門の科学者、技術者は、人民経済の主体化、現代化、科学化を促進し、生産を増やし、燃料、原料、動力を節約し、効果的に利用するうえで提起される科学技術的問題を、主体的立場に立って円滑に解決せねばならないと指摘した。

総会は、対外貿易を速やかに発展させる課題について提起した。

総会は、貿易活動の体系をいっそう秩序整然と整えることについて指摘した。

総会は、人民経済のあらゆる部門、あらゆる単位で、

自らの原料と資材でより多く生産し建設するための闘争を強力に展開することについて指摘した。

総会は、今日の増産・節約闘争は単純な経済実務の事業ではなく、大衆の思想を発動して、全党と全社会に新たな革命的気象が満ち溢れるようにするための重要な政治活動であると強調し、そのための対策を提起した。

総会は、偉大な大安の事業体系をしっかりと守って、经济管理運営事業を積極的に改善し、増産・節約の闘争を強化する課題について提起した。

総会は、次のように指摘している。

金日成主席が創始した大安の事業体系は、偉大なチュチェ思想を具現したもっとも優秀なわれわれの方式の社会主義经济管理體系である。

わが国の歴史的経験は、大安の事業体系こそが、経済を社会主義経済発展の合法則性に合致するよう科学的、合理的な管理運営を可能にする正しい社会主義经济管理形態であるということをはっきりと示している。われわれは、実践を通してその正当性と生活力が確証された大安の事業体験を引き続いて守り、徹底して貫徹するとき、わが国の社会主義経済制度の無尽蔵の潜在力を残りなく発揮させ、経済建設において新たな革命的昂揚を起こすことができる。

総会は、大安の事業体系の重要な優位性は党の指導と革命的大衆路線を結合し、大衆の自覚的熱意を積極的に発動することにあると強調し、次のように指摘した。

经济管理において大衆路線を具現しているのは、大安の事業体系の基本精神であり、革命の本質である。

われわれは、经济管理において政治活動を確固として先行させ、大衆の自覚的熱情と創造性を積極的に呼び起こし、企業管理のあらゆる分野で革命的大衆路線の要求を徹底して貫徹しなければならない。そうして、人民大衆が主人となって管理運営する社会主義的集団経営の優越性を強く誇示しなければならない。

総会は、あらゆる工場、企業所において大安の事業体系の要求どおりに、党委員会の集団的指導を強化し、生産指導と技術指導をさらに改善することについて強調して、生産の組織を科学技術的に行ない、技術準備と生産準備を先行させ、生産を高い水準で正常化し、最大限の技術経済的效果をもたせなければならないと指摘した。

総会は、労働行政事業は対人活動、政治活動であると強調し、勤労者たちをチュチェの労働観でしっかりと教育し、労働の組織と管理を改善し、労働条件を円滑に保証して従業員1人当りの生産額を画期的に高めることについて指摘した。

総会は、人民経済のあらゆる部門で財政の唯一管理制の原則を徹底して順守し、ウォンによる統制をさらに強

化して、社会主義社会の過渡的特性に合致するよう独立採算制を正しく実施し、経済的槓杆を正しく利用せねばならないと指摘した。

総会は、増産・節約闘争に対する党の指導をいっそう強化する課題につか提起した。

総会は、つぎのように指摘した。

社会主義建設に対する党の指導を確固と保障して党組織の戦闘的機能と役割を高めることは、増産・節約闘争を強化し、社会主義経済建設において新たな高揚を起こすための決定的保障である。

党の指導は、全社会が一つの政治・思想的統一体を成している社会主義社会において生命線であり、党の威力を強化して党組織の戦闘的役割と機能を高めるところに、資本主義に比することのできない社会主義の優位性を全面的に発揮して社会主義経済制度を絶えまなく強化発展させる正道がある。

革命と建設にたいする党の指導をいっそう強化し、勤労者に対する政治思想教育を掌握するとき、革命隊伍の威力を不敗のものとし、社会主義建設をたゆみなく前進させることができるということは、長期間、革命と建設をまっすぐに勝利へと導いてきたわが党の経験が教える高貴な真理である。

各級の党組織は社会主義建設に対する党の指導を確固と実現し、政治組織活動を強化し、増産・節約闘争が大衆自身の運動として力強く繰り広げられるようにしなければならない。

総会は、増産・節約闘争に対する党の指導を強化するうえで基層党組織の役割を高めることが重要であると強調し、つぎのように指摘した。

生産現場に深く根を下ろして大衆と直接会し活動する基層党組織は、社会主義建設を促進させるうえできわめて重要な役割を果たす。基層党組織の力が強ければこそ、党の威力が強化されて、社会主義建設を成功裡に進めることができる。

過去、わが党のすべての路線と政策が徹底的に貫徹され、党の政策が生きた現実と転換されえたのは、主に基層党組織の戦闘的機能と役割によって、党の決定が大衆のなかに随時とどこおりに隔々まで浸透し、大衆が常に党とともに一体となって戦うようになったからである。

われわれは最大限の増産と節約をめざす今日の全大衆的闘争においても、基層党組織の力が、余すところなく発揮されるようにしなければならない。

総会は、各級の党組織が勤労者に対する思想教育を強化しなければならないと強調し、活動家と勤労者をわが党のチュチェ思想でしっかり教育して、かれらが国の暮らしの主人としての立場と自力更生、刻苦奮闘の革命精

神、革命的楽観主義と高尚な愛国心をもって、生産と建設において無比の献身性と労働偉勲を立てるようにしなければならないと指摘した。

総会は、指導的活動家が高い革命性と戦闘力をもって社会主義大進軍運動を力強く組織、指揮することについて強調し、つぎのように指摘した。

高い革命性と戦闘力は、革命の指揮官である指導的活動家が当然備えるべき重要な品性である。

活動家たちが、(朝鮮)戦争後何もないところから大型揚水機を作りあげた楽園機械工業の精神と、6万<sup>ト</sup>能力の分塊圧延機から12万<sup>ト</sup>の鋼片を作った降仙の労働者階級の革命的気迫で働くならば、すべての条件が整った今日の環境でできないことなど何もない。

すべての指導的活動家は、戦後期に発揮したあの革命精神、あの戦闘的気迫で、革命任務遂行において限りない献身性を発揮し、事業をたくみに組織、指揮すべきである。

総会は、全党に人民的な活動作風をいっそう徹底的に確立して、活動家が人民に対する献身的服務精神を高く発揮するよう強調し、次のように指摘した。

指導と大衆を正しく結合し、指導的活動家が人民のために献身的に働くようにすることはわが党が一貫して堅持している原則である。

わが党は、人民のため忠実に服務することを崇高な使命とし、すべてを捧げてたたかう革命的党である。

すべての活動家にとって、人民の真の服務者、人民の忠僕となって、かれらのために自己のすべてを捧げ働くことほど誇らしく、生きがいのある仕事はない。

指導的活動家は、人民のなかから生まれ、人民のために服務する忠僕であるという崇高な自覚をもって、いつも大衆のなかに深く入り込み、かれらが考え、要求することを解決するために懸命に努力すべきであり、大衆の力を積極的に動員して革命の課題を成功裏に遂行しなければならない。

指導的活動家は、1990年代の初頭から革命的な活動作風と斬新な働き方を身につけて労働者階級の働く地下坑道と、生産現場に入り、対人活動を活発に行なうべきであり、常に大衆に学び、大衆を教え、大衆と一つになってたたかわなければならない。

総会は、党組織が増産・節約闘争を大衆運動と結合し進めることに大きな意義を付与し、次のように指摘した。

増産・節約闘争は、すべての人民が党の意図に沿ってひとしく立ち上がり、大衆の革新運動として進めるときにのみ成功裏に遂行される。全社会的規模で生産増大の予備と増産・節約の可能性を余すことなく動員、利用することは、人民大衆が工場の主人、設備の主人となって

働く社会主義社会においてのみ実現しうる壮大な事業である。

党組織は、三大革命赤旗奪取運動、隠れた英雄の規範に学ぶ運動と関連させて増産・節約闘争を全国的、全人民的闘争で力強く進めることによってこの闘争において皆が革新者、偉勲の創造者になるようにし、大衆運動の威力をもって経済建設を推し進めていかなければならない。

総会は、党組織が勤労団体組織にたいする党的指導を強化するよう強調し、社労青組織と、職業総同盟をはじめ勤労団体組織が青年と勤労者にたいする思想教育を行ない、増産競争運動と各種の社会的運動を広く組織して、党のよびかけにそって全国、全人民が増産・節約闘争にひとしく立ち上がるようにしなければならぬと指摘した。

総会は、増産・節約のための大衆的闘争は希望に満ちた1990年代を新たな飛躍と革新で輝かすための闘争であり、祖国の隆盛、発展と人民の幸福のための聖なるたたかいであると強調し、つぎのように指摘した。

われわれには増産・節約闘争を力強く進めて社会主義建設で新たな高揚をもたらさしめるあらゆる条件と可能性が十分に整っている。

朝鮮人民は、チュチェ思想を具現した科学的な路線と政策をもって社会主義の栄誉をとどろかし、誇りある闘争の歴史と伝統を創造してきた誇り高い人民である。社会主義建設が進めば進むほど、より多くの生産増大の予備と可能性を生みだす優れた社会主義経済制度があり、党のよびかけがあれば山のごとく立ち上がって無条件にやりとげる英雄的人民がいるかぎり、われわれには成し遂げられないこと、占領できない要塞などどこにもない。

党は人民を信じ、人民は党を信頼し、党と人民が固く団結してたたかうのは、わが社会の誇るべき風貌であり、この偉大な一心団結の威力を高く発揮するところに増産・節約闘争を強化し、社会主義経済建設において一大

高揚をもたらすキープポイントがある。

総会は、1990年代の初年を迎えて繰り広げることになる今日の増産・節約闘争の巨大な意義について強調し、次のように指摘した。

今日の大衆的増産・節約闘争は、千里馬に速度戦を加えた勢いで革命的大高揚の新しい歴史を切り開く栄誉ある事業であり、チュチェの要求どおりに社会主義を正しく建設するわが党と人民の創造力と才能を広く誇示する張り合いのあるたたかいである。

今回の総会が提示した増産・節約の課題が実現されれば、わが国の経済力は新たな段階へと飛躍し、人民に自主的な政治生活、豊かな文化生活とともに物質生活もよりいっそう高い水準で円満に保障され、自主的人間の真の理念が具現された新しい社会主義生活がいっそう全面的に花開くであろう。

今回の総会は、党中央委員会1956年12月総会が増産・節約闘争で革命的大高揚の発端を切り開いた意義深い総会となったように、90年代の革命的大高揚の新たな歴史を創造し、祖国統一をめざすわが人民の闘争において画期的転換をもたらした意味深い会議としてわが党史に永遠に記録されるであろう。

総会は、すべての党员と勤労者が党のよびかけに応じ、ひとしく立ち上がり、増産・節約のための大衆的革新闘争を力強く進め、社会主義経済建設で新たな高揚を起こすであろうとの確信を表明した。

総会は、当該の決定を採択した。

総会は、組織問題を討議した。

尹基福氏を党中央委員会書記に選挙した。

許極成氏を党中央委員会候補から委員に補選した。

チュ・サンソン、キム・ソンギョ、リ・ウォンジェ、キム・ボンウル、チュ・ギリョン、チュ・ヨンフン、リ・デセ、リ・ハクソプの各氏を党中央委員会候補に補選した。

# 主要統計 朝鮮民主主義人民共和国 1990年

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 第1表 年央人口 (推定)      | 第8表 各年の工業生産増加率の推移 |
| 第2表 農業人口 (推定)      | 第9表 主要鉱工業生産 (推定)  |
| 第3表 土地利用 (推定)      | 第10表 財政規模の推移      |
| 第4表 穀物生産の推移        | 第11表 国防費支出の推移     |
| 第5表 主要食糧作物の生産 (推定) | 第12表 国家予算歳出の部門別状況 |
| 第6表 漁獲高 (推定)       | 第13表 主要国別貿易額 (推計) |
| 第7表 経済計画期別の工業生産増加率 |                   |

(使用記号：一該当なし，…不明，0・ゼロ・極少)

第1表 年央人口 (推定)

(単位：万人)

1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
1,758	1,803	1,848	1,895	1,942	1,990	2,039	2,088	2,139	2,190	…

(出所) UN, *Demographic Yearbook*, 1988.

第2表 農業人口 (推定)

(単位：1,000人)

	総人口	農業人口	経済活動人口	農業従事者	比率(%)
1975	15,853	7,574	6,812	3,255	47.8
1980	18,025	7,715	7,838	3,355	42.8
1985	20,385	7,764	9,084	3,460	38.1
1987	21,384	7,750	9,617	3,485	36.2
1988	21,895	7,735	9,891	3,494	35.3
1989	22,413	7,716	10,174	3,503	34.4

(出所) FAO, *FAO Production Yearbook*.

第3表 土地利用 (推定)

(単位：1,000ha)

	総面積	農地	耕地		牧草地	森林	その他	灌 面	澆 積
			耕地	果 樹 他					
1982	12,054	2,270	2,180	90	50	8,970	751	1,060	
1984	12,054	2,312	2,220	92	50	8,970	709	1,060	
1985	12,054	2,362	2,270	92	50	8,970	659	1,070	
1986	12,054	2,392	2,300	92	50	8,970	629	1,150	
1988	12,054	2,402	2,310	92	50	9,970	619	1,190	

(出所) FAO, *FAO Production Yearbook*.

第4表 穀物生産の推移

(単位：万トン)

	1979	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
目 標	950	…	…	1,000	…	…	…	…	…	…
実 績	…	950	…	1,000	…	…	…	…	…	…

(出所) 各年度国家予算報告。

第5表 主要食糧作物の生産 (推定)

(単位: 1,000トン)

	米	大麦	小麦	とうもろこし	粟	こりゃん	オート麦	穀類合計*	じゃがいも	さつまいも
1984	5,570	500	640	2,600	500	170	170	10,230	1,700	450
1985	5,800	571	730	2,680	535	180	185	10,745	1,850	470
1986	6,000	600	790	2,750	545	190	187	11,148	1,900	485
1987	6,200	625	800	2,900	560	196	195	11,564	1,950	494
1988	6,350	630	880	2,950	575	200	198	11,872	1,975	497
1989	6,400	638	900	3,000	600	205	205	12,040	2,050	500

(注) \*その他の穀類を含む。

(出所) FAO, FAO Production Yearbook, 1985; 1987; 1989.

第6表 漁獲高 (推定)

(単位: 1,000トン)

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
漁獲高	1,550	1,600	1,650	1,700	1,700	1,700	1,700
内水域	85	90	100	110	100	100	100
海域	1,465	1,510	1,550	1,590	1,600	1,600	1,600

(出所) UN, Fishery Statistics, 1988.

第7表 経済計画期別の工業生産増加率

経済計画期	工業総生産額 年平均増加率 (%)	基準年度に対する倍数(倍)		
		総生産額	生産手段生産	消費財生産
戦後復旧3カ年計画(1954~56年)実績	41.7	2.8	4.1	2.1
5カ年計画(1957~60年)実績	36.6	3.5	3.6	3.3
7カ年計画(1961~70年)実績	12.8	3.3	3.7	2.8
6カ年計画(1971~76年)実績	16.3	2.5	2.6	2.4
第2次7カ年計画(1978~84年)実績	12.2	2.2	2.2	2.1
第3次7カ年計画(1987~93年)目標	(9.6)	1.9	1.9	1.8

(注) 1977年, 1985年, 1986年は「調整の年」として除外されている。かっこ内は基準年度に対する倍数に基づく試算。

(出所) 公式発表数字に基づいての作成。

第8表 各年の工業生産増加率の推移

(%)

1980	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
17	16.8	...	...	...	...	...	...	...	...

(出所) 金日成主席の各年度「新年の辞」による。

第9表 主要鉱工業生産 (推定)

	単 位	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
〈鉱産物〉								
無煙炭	1,000トン	36,500	38,000	38,000	39,000	39,500	39,500	40,000
褐炭, 亜炭	"	10,500	11,000	11,000	12,000	12,500	12,500	12,500
鉄 鉱 (Fe含有量分)	"	3,250	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,600
銅 鉱 (Cu " )	"	15	15	15	15	15	15	15
鉛 鉱 (Pb " )	"	95	75	110	110	110	110	110
亜鉛鉱 (Zn " )	"	140	140	140	180	225	220	225
タンダステン鉱 (WO <sub>3</sub> " )	ト ン	2,200	500	1,000	1,000	1,000	500	500
銀	"	50	50	50	50	50	50	50
金	"	5	5	5	5	5	5	5
マグネサイト	1,000トン	1,901	1,901	1,901	1,901	2,000	2,000	...
りん鉱	"	500	500	500	500	500	500	500
〈製造業製品〉								
窒素肥料 (N 成分)	1,000トン	588	608	620	630	640	650	...
りん酸肥料 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> " )	"	130	130	132	135	137	137	...
ガソリン	"	700	750	800	850	900	900	900
コークス	"	3,300	3,400	3,400	3,500	3,500	3,500	3,500
セメント	"	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,981	9,979
銑 鉄	"	5,300	5,500	5,700	5,800	5,800	5,800	6,530
粗 鋼	"	5,800	6,100	6,500	6,500	6,500	6,500	7,980
銅	"	22	22	22	22	22	22	22
鉛	"	60	60	95	95	95	95	95
亜 鉛	"	120	120	120	180	180	210	210
〈エネルギー〉								
電 力	100万 kWh	40,000	41,000	45,000	48,000	50,000	50,200	53,000

(出所) UN, *Industrial Statistics Yearbook 1988*, Vol. II (Commodity Production Statistics 1978-1987) より作成。

第10表 財政規模の推移

(単位: 100万ウォン)

年 度	歳 入	増加率 (%)	歳 出	増加率 (%)	財 政 収 支	歳出に占める 国防費比率 (%)
1983(決算)	24,383.60	7.5	24,018.60	8.2	365.00	...
1984(決算)	26,305.10	7.9	26,158.00	8.9	147.10	14.6
1985(決算)	27,438.87	4.3	27,328.83	4.5	110.04	14.4
1986(予算)	28,481.54	3.8	28,481.54	4.2	—	14.1
(決算)	28,538.50	4.0	28,396.10	3.9	142.40	14.0
1987(予算)	30,307.80	6.2	30,307.80	6.7	—	13.8
(決算)	30,337.20	6.3	30,008.51	5.9	270.51	13.2
1988(予算)	31,852.10	5.0	31,852.10	5.9	—	12.2
(決算)	31,905.80	5.1	31,660.90	5.2	244.90	12.2
1989(予算)	33,550.70	5.2	33,550.70	6.0	—	12.1
(決算)	33,608.10	5.3	33,382.94	5.4	225.16	12.0
1990(予算)	35,656.10	6.1	35,656.10	6.8	—	12.1
(決算)	35,690.41	6.2	35,513.48	6.4	176.93	12.0
1991(予算)	37,120.60	4.0	37,120.60	4.5	—	12.3

(出所) 各年度国家予算報告より作成。



第11表 国防費支出の推移

(単位:100万ウォン)

	1985年度決算	1986年度決算	1987年度決算	1988年度決算	1989年度決算	1990年度決算
国防費*	3,970.62	3,975.45	4,182.48	3,862.63	4,005.95	4,261.18
歳出中の比率(%)	14.5	14.0	13.8	12.2	12.0	12.0
前年比増加率(%)	4.0	0.1	5.2	-7.6	3.7	6.4

(注) \*公表された歳出中の比率より算出したもの。

(出所) 各年度国家予算報告より作成。

第12表 国家予算歳出の部門別状況 (前年比増加率)

	1987年度	1988年度	1989年度		1990年度		1991年度
	決算	決算	予算	決算	予算	決算	予算
歳出総額	5.9%	5.2%	6.0%	5.4%	6.8%	6.4%	4.5%
人民経済発展費	7.3%	6.5%	6.1%	5.8%	6.9%	6.6%	4.6%
基本建設	8.7%		工業建設投資 9.0%	7.0%		7.2%	
採掘工業			} 8.0%	} 8.0%	} 7.5%	} 8.1%	} 6.5%
石炭							
其他鉱業							
電力工業		(大きな力)		7.0%			} (さらに増やす)
金属工業			16.0%	(大きな前進)	(大きな前進)		
機械工業					(多くの資金)	6.5%	
化学工業							
建材工業			13.0%				
軽工業		(巨額の資金)	7.0%	6.0%	6.5%	6.0%	5.6%
農業							
水産業		20%	(はるかに増やす)		(多くの資金)		
交通運輸							
大自然改造							
社会文化施策費		5.5%	6.1%	5.2%	6.5%	6.0%	4.0%
教育	5.8%	5.2%				4.8%	
科学研究	科学技術発展費 32%	科学事業費 35%	(大幅に増やす)				
文化	1%						
保健	4.3%	5.6%				5.2%	
住宅建設					9.0%	5.0%	
国防費	5.2%	-7.6%	5.1%	3.7%	7.7%	6.4%	7.1%

(出所) 各年度国家予算報告による。国防費は歳出に占める比率より計算。なお、かっこの表現は、同報告で数字が示されない年に使用されていたもの。

第13表 主要国別貿易額 (推計)

(単位:100万米ドル)

	輸 出 ( F O B )					輸 入 ( C I F )				
	1985	1986	1987	1988	1989	1985	1986	1987	1988	1989
合 計	1,277.4*	1,313.3*				2,035.2*	2,057.3*			
社 会 主 義 国	825.3*	941.8*				1,249.2*	1,518.4*			
ソ 連	485.1	642.0	682.7	887.3	890.7	864.1	1,186.5	1,391.4	1,921.7	1,641.1
中 国	222.5	255.2	214.7	212.3	166.7	263.0	280.8	304.8	379.7	398.5
ポ ー ラ ン ド	15.6	19.3	18.6	23.8	18.3	24.3	23.8	24.0	32.8	32.2
チ ェ コ ス ロ バ キ ア	34.6	...	...	...	...	33.7	...	...	...	...
東 ド イ ツ	25.7	...	...	...	...	25.7	...	...	...	...
ブ ル ガ リ ア	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
ハ ン ガ リ ー	5.4	5.1	12.6	21.1	23.3	5.4	4.3	26.2	5.4	22.1
ル ー マ ニ ア	18.2	19.1	23.0	28.7	33.0	20.2	21.2	25.5	31.8	36.6
ユ ー ゴ ス ラ ビ ア	2.0	...	...	2.5	6.3	1.0	...	...	0.9	3.0
先 進 工 業 国	229.1	233.4	331.3	374.0	322.2	375.5	330.8	503.2	466.9	419.7
日 本	161.0	154.3	217.7	293.3	267.5	274.3	203.7	237.6	262.7	215.8
西 ド イ ツ	56.0	64.1	94.5	41.0	25.5	27.0	42.7	139.7	44.1	81.4
フ ラ ン ス	4.0	7.5	8.6	9.4	9.5	8.6	10.5	29.7	16.7	19.0
イ タ リ ア	1.0	2.0	1.6	2.5	1.9	14.4	18.4	17.5	20.6	21.9
ス ペ イ ン	2.2	2.1	3.4	3.9	7.3	2.7	1.5	4.8	4.1	1.7
オ ー ス ト リ ア	0.1	...	0.5	11.1	1.1	9.6	3.7	5.5	20.7	9.9
ス イ ス	0.2	0.1	0.5	1.4	0.9	3.0	5.7	3.5	5.7	7.5
イ ギ リ ス	2.6	...	1.0	1.4	1.8	3.7	...	3.4	6.3	5.6
ス ウ ェ ー デ ン	0.4	0.5	0.7	1.0	1.4	1.3	2.5	5.0	2.5	3.9
オ ー ス ト ラ リ ア	0.2	0.9	0.2	0.2	0.4	24.5	30.5	40.1	47.7	36.2
そ の 他	0.1	1.9	2.6	8.8	4.9	6.4	11.6	16.4	35.8	16.8
発 展 途 上 国	128.2	117.7	147.5	218.1	202.5	141.5*	168.7*	224.2	266.6	319.1
香 港	18.3	20.0	28.9	28.0	34.3	55.4	82.1	117.0	128.9	146.8
タ イ	10.3	7.3	9.4	28.8	23.1	9.8	14.2	4.8	5.8	8.9
マ レ ー シ ア	0.4	1.8	0.1	16.0	2.6	1.4	1.4	3.2	5.9	1.5
シ ン ガ ポ ー ル	6.1	7.5	21.5	49.7	48.1	24.9	26.7	31.3	63.8	49.6
イ ン ド ネ シ ア	6.6	3.8	16.0	8.5	15.4	14.6	4.1	5.2	14.6	31.4
フ ィ リ ピ ン	0.9	1.7	4.8	4.3	0.6	1.0	...	10.3	...	13.2
バ ン グ ラ デ シ ュ	19.7	19.2	11.1	17.4	12.1	5.1	0.1	2.8	2.8	0.2
イ ン ド	27.2	26.1	28.3	32.5	33.6	6.0	6.2	7.4	8.7	10.1
サ ウ ジ ア ラ ビ ア	3.3	1.2	0.1	0.1	0.1	...	0.2	2.0	2.0	2.4
イ エ メ ン ・ ア ラ ブ	7.0	7.4	8.8	11.0	12.7	...	...	...	...	...
エ ジ プ ト	13.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.7	18.9	28.1	13.7	17.0
チ ュ ニ ジ ア	0.4	1.8	2.1	1.9	1.9	...	...	...	1.7	10.6
ジ ン バ ブ エ	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.7	3.0	4.0	4.5
そ の 他	14.6	19.7	16.1	19.7	17.8	22.3	14.1	8.9	14.7	22.9

(注) 相手国の貿易統計に基づく推計。輸出は、FOB、輸入はCIFにIMF、DOT方式で調整済み。\*は不明(…)を除いた合計。

(出所) IMF, *Direction of Trade Statistics Yearbook, 1990*。ただしソ連は『ソ連東欧貿易調査月報』1991年2月号、チェコスロバキア、キューバはUN, *International Trade Statistics Yearbook, 1986*。東ドイツは *Statistisches Jahrbuch der Deutschen Demokratischen Republik, 1986*。